

第五章 洋書と和書の販売成績

一 洋書偽版（海賊版）禁止の運動

昭和二十六・七年頃には、資金面からいって洋書輸入は全く自由であったとはいえなかったが、まず一応は不自由はなくなった。しかし、この時期に当って、洋書輸入業界には解決しなければならない二つの問題があった。一つは対内問題で、一つは対外問題であった。

対内問題は、一、一九二頁で記した極東貿易問題である。

後者は洋書の日本国内における海賊版横行の問題である。外国圖書の翻訳や複製版を原著者や出版社に許可を得ないまま出版することが、戦前上海で盛んに行われ所謂「上海版」と称して悪名を流した。日本では終戦前にも多少行われていたが、戦後さらに烈しくなってきた。この問題の解決は、次に記するように昭和二十八年以後になった。

昭和二十六―三十年の間は、国民の大多数はなお営々としてその生活の維持に苦勞していた時代で、大学生の生活も決して楽ではなかった。教科書を買うということも、なかなか容易でなかった時である。一冊二千元も三千元もする洋書を右から左と求め得られるものは、そう多くはなかった。多くは必要頁だけを教授の私蔵本や学校の図

書館蔵本から複写して間に合わすという状態であった。そこで、需要の多い理工学書などを写真製版して原書価格より非常に安い値段で売捌くのを目的とした業者が出現した。

この時期、マグロー・ヒル社の“Perry, J. H. - Chemical Engineers' Handbook” インターサイエンス社の“Encyclopedia of Chemical Technology”を覆刻して、米国の出版社の無承認のまま秘密に発売頒布した事件があった。この事件は、初め文京区森川町所在の技術資料刊行会（責任者中村梧一郎）で覆刻頒布を計画、中途その計画を放棄すると約したのであるが、その裏面で新宿区西大久保一丁目所在の文献社（責任者山本進）を通じて、秘密裡に販売し、その企画が相当大規模であることも明らかになった。

サンフランシスコ条約が発効して居り、同条約の第十五条(c)の(I)・(II)は著作権の効力延長を規定していて、日本は米国の著作権を尊重すべき義務を負わされていたのである。すでにアメリカあたりでは、書物のブラック・マーケット「東京版」などという名称で呼ばれるようになっていて“Publishers' Weekly”でも問題にされていた。

このような事態は、日本の国際信用を墮とす以外の何物でもないことを、洋書輸入同業会は憂慮し、同会理事長及理事連名で、当該出版業者を告訴した。勿論、被害者である米国のインターサイエンス社及びマグロー・ヒル社からの委任状をも受けての上であった。

この事件は、最終的に山本進文献社社長との話し合いで、印刷した製品・印刷用のプレート一切を告訴代理人側に引上げることによって解決した。それまでには、国会の文部委員会へ陳情したり、当時の稲葉修同委員や寺中作雄文部省社会教育局長の尽力をうけた。

司社長は、「私の履歴書」の中で、

旧外債処理のため外国をまわるようになってから、行く先々で日本の違法出版物、つまり洋書の手盗版に對する苦情を聞かされておどろいた。日本人は信義にあつちと思つていたが、手盗版を出すようでは先が思ひやられるちのである。これには私もカチンと頭にきた。日本へ歸つて著作權法なるものを調べてみると、なんとこれが明治三十二年に制定されたもので、違反した場合の罰則も五十円以上五百円未満の罰金という時代ばなれのした規定であつた。

なるほど、その程度ですむなら一部の人間がやり得と考えるのもムリはない。これは國際信義の面からいっても放置しておけないと考へた。さつそく文部省に出向いてかけ合つた。當時の社會教育局長は現國立劇場理事長の寺中作雄氏である。法律改正が必要だからむずかしいという話だったが、日本人の体面にかかわる問題だからと食ひさがり、何度も足を運んで折衝した。

寺中さんちもずいぶん骨を折つてくれて、三十三年に法律が改正された。これによつて罰則も二年以下の体刑または五万円以下の罰金というように強化された。体刑が伴うと檢察庁も違反摘発に本腰をいれはじめ、手盗版はしだいに影をひそめるようになった。おかげで海外の出版業界から非常に感謝されたものであつた。

少し長い引用であるが、経過が流れのままに伝えられている。

二 司社長の海外出張

当社は、第二次世界大戦に突入する前に、相当多額の外貨債を所持していたこと、そしてそれを政府に全額吸い上げられて了っていたこと、終戦後、それを如何なる形式によっても銚一文返済して貰えなかったこと、しかも、当社には開戦時に決済できなかった外国取引先への買掛金は、そのまま残ったことも既に記したところである。

昭和二十五・六年ごろから海外との取引が再開されると、海外の取引先から旧債務の決済を求められることもあった。けれども、とにかくそれはそれとして、英・米における嘗ての取引先は、貿易再開に当って、氣持よく書籍・洋品・雑貨・事務機械等を送ってくれた。

司社長としては、一社の総帥として事情が許せば一日も早く海外に赴いて旧債の弁済について了解を求め、且つ戦後によせられた厚意に対する感謝の意を表したいと考えていた。幸いにして本社ビルも落成し業績も順調に恢復したのを期に、多年の念願を果す可く、昭和二十八年三月二十四日の取締役会にはかり、その同意を得て、同年四月一日、草間省二良丸善製品販売株式会社専務取締役を帯同して、欧米取引先訪問の途に上り、六月二十六日無事帰朝した。

その時の模様も「私の履歴書」に詳しい。要点を引用しよう。

二十六年ごろからぼつぼつ取り引きが再開されるようになると、当然のことながらその支払い請求を受けた。為替レートはすでに一ドル三百六十円に変わっていたから、十五万ドルといえは五千四百万円になる。以上は

外貨債だけだが、このほかに未払い分もあり、その額は膨大であった。資本金六千万円の会社にはとても払える額ではない。……

そこで、こうなったら取り引き先と個別交渉して払えるような方法にしてみよう手はないと考え、本社ビルが落成したのを機会に二十八年三月からこの難問に取り組んだ。まず大どころから片づけようと、アメリカを振り出しに出かけた。サンフランシスコ、スプリングフィールドからシカゴを経てニューヨークにはいり、一万ドルの債権者であるザ・マクミラン社を訪れた。

ホテルで接待を受けたあと交渉にはいり「勘定は……」と切り出したところ、ブレッド社長いわく「いや、お前のほうの勘定は全部すんでいる」。あまりにも意外なことばに私は一瞬キツネにでもつままれたような気持ちになった。そんなはずはないと口から出なかった。良心はゆるさなかったが半信半疑でその場はそのままにした。

いちばんの大口がそんな調子だったので、私は勇気づけられてつぎつぎに取り引き先をまわり、誠意をもって交渉にあたった。戦争ですべてを灰にしたことや外貨供出の事情などを説明して、立ち直ろうとする丸善に借金が払えるような方途を講じてほしいと頼んだ。五割引きや三年の年賦払いにしてくれたところもあった。相手によって条件こそ違ったが、どこでも好意的に応じてくれたのはうれしかった。

なにしろ三千軒からの取り引き先だから一度や二度ではまわり切れないので毎年のように出かけ、結局十二年間に八回も海外に出張することになった。借金は三年間でどうやら全部返済したが、こちらの誠意が認めら

れて条件は思ったより有利になり、そんな大きな負担もせずに解決できたのは幸運だった。

旧債弁済のことについては、右で要領が尽きる。ただ、この時の旅行で英国についての司社長の感懐は読む者として興味深い。序でだから次に援いておこう。

二十八年にアメリカから英国へ足をのばしたときは、ちょうどエリザベス女王の戴冠式が行なわれる三週間前であった。私は二十日間ロンドンに滞在したが、その間政府機関の文化振興会が一切の世話をしてくれた。ホテルはもちろん、どこに行くにも車と案内人つきといういたれりつくせりのサービスで、ロンドン市内の名所をはじめドーバー海峡にまで案内してくれた。

戴冠式には日本から天皇陛下のご名代として皇太子さまが出席された。ほんとうかどうかは知るよしもないが、皇太子さまよりも一商人の私のほうが歓待されたと英国人や在英日本人の間にも評判が立ったとかで恐縮したものであった。長年の取り引きで培^{つちか}われた信用がいかに大切かを痛感させられた。対日感情がまだよくない時だけに一層その感が深かった。戴冠式は拝観しなかったが、式の翌日の飛行機が予約できないため、残念ながら前夜ロンドンを発った。

当社の外国における評判については、木村毅著「丸善外史」第一章「世界の丸善」中の「海外の信用」にも興味深く語られている。

英国の出版社として有力な George Allen & Unwin 社の会長であった Sir Stanley Unwin によっても次の如く記されている。当社の信用が大きかったことが、窺えるであろう。

日本はベルヌ条約の調印国であり、同国では理論的にはともかく国際著作権が施行されているのであるが、今日は存在していても明日は消えてなくなるような出版社をつきとめることも、それらの社が無許可翻訳を出版して、許可を受けた翻訳のとりきめの先手を打つようなことのないようにすることも、非常に困難である。日本はイギリス書籍にとって最も重要な市場であった。（事実、世界中の英語を話さない他のどの国よりもはるかに重要な市場であった。）教育を受けた日本人はほとんどみな英語を読み、かれらの知識欲は飽くことを知らない。ある人びとから「難解な読物」と呼ばれているような本であっても、日本人は平気でこれを読む。難解ということは、ただ日本人の読書欲をそそるだけである。日本の学生は自分の研究題目を修得することに熱心で、そのために必要な勉強をする覚悟をもっている。賀川氏の話によると、日本の大学にはイギリスの大学にいる学生の約二倍の数の学生がいる由であり、さらに同氏の付言したところでは、その学生たちはみな毎月一定額の金を書物を買うのにつかうように奨励されているとのことであった。その証拠は、円価の下落と中国侵略が取引を終結させるまでに、日本からイギリスの出版業者に寄せられたまじめな本の注文量の大きさに見ることができであろう。事実上あらゆる題目にわたり、比較的重要なあらゆる外国語で書かれた書物の最も完備したストックをもっている書店はどこかときかれたら、私は昔だったら東京の丸善だと二つ返事で答えたであろう。この丸善の店に行ってみたときは全く意外なほどの驚きに打たれたといつてよく、取扱われている本がことごとく外国語のものであることを考えると、だれしもその組織の完璧さに驚嘆せずにはいられないであろう。（布川角左衛門・美作太郎共訳「出版概論」二二―二頁）



スタンレー・アンウィン卿来社
 (左から石川実 司社長 アンウィン卿
 同令息 中山良謙 伊藤四良)

これは、主として、終戦前の当社についての感想である。この書の著者、スタンレー・アンウィン卿は、第二次世界大戦後の昭和二十七年秋にも来店した。丁度本社社屋の完成前であった。その時卿は司社長に「何時頃完成するのかね」と尋ねたので、今年のクリスマスまでにはと答えて、卿を驚かしたが、その通りに行ったので、アンウィン卿も満悦されたであろう。(Sir Stanley Unwin - The Truth about a Publisher. p. 119-120 参照)

三 洋書の輸入先と輸入量

昭和二十六年から同三十年末までの当社の主要洋書輸入先を国別に挙げると次のようである。

まず、輸入量の最も多い米国では、

Crowell-Collier Publishing Co. Interscience Publishers, Inc. McGraw-Hill International Corp. The Macmillan Co. Henry M. Snyder & Co. John Wiley & Sons, Inc. American Chemical Society Kraus Periodicals

等が主要な取引先であった。

次に輸入量の多かった英国では

Cambridge University Press Longmans, Green & Co. Ltd. Lange, Maxwell & Springer
Ltd. Macmillan & Co. Ltd. Oxford University Press

フランスでは、

Le Département Etranger Hachette Librairie Larousse Maison du Livre Français

更にドイツからは

Springer Verlag Verlag Chemie Walter de Gruyter Eberhard Brockhaus J. C. B.
Mohr Köhler & Volkmar

等であったが、ドイツは第二次大戦による敗戦と東西両ドイツに二分された影響とで出版界も大きな打撃をうけ、戦後の立ち直りは遅れていた。例えば世界的大出版社 Springer Verlag は、戦後暫くは、チエコスロバキアの貴族 Captain I. R. Maxwell の資本下で経営の回復をはかるといふ状況にあった。一方、戦前ドイツの取次店として最大を誇った Köhler & Volkmar は、当社との取引上の関係では、姉妹関係と云われる程緊密で、同社には「丸善部」が置かれている程であったが、戦後の分割によって旧社主はライブチヒで、番頭はシュテュットガルトでと、東西に分れて営業を開始せざるを得なくなり以前のような勢いは全くなかった。

出版社・取次店のこのような状態と、戦後の出版用紙欠乏などによる数々の困難を克服して、西ドイツにおいても昭和二十五年にはようやく出版事業も回復を見せ、我が国にもドイツ書の輸入が再開された。けれども、なお出

版業者・取次業者ともに資本不足が甚だしく仕入掛率が悪かったり、前金要求が厳しかったりで、戦前のような取引が軌道にのり始めたのは昭和二十八・九年からであった。

最後に、当社が昭和二十六年にユネスコ総代理店になったことを記しておかねばならぬ。

ユネスコ (UNESCO) ‘うなびもなく’ The United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (国際連合教育科学文化機構) の略称である。終戦の年の一九四五年ロンドンに設立、本部をバリに置き、各国民相互の知識と理解を深め、教育の機会均等、文化財の保護、文化人の国際交流を行い、戦争防止、世界平和の達成を目的とする機構である。昭和二十六年六月二十一日、日本はこれに加入することを認められた。ほぼ時を同じうして、当社はユネスコ出版物の日本における総代理店に指定され、今日に至っている。

ところで、この期間にどの位の量の洋書輸入があったのか、この点の資料は充分ではない。とくに分類別の数量は知りたい。ここでは洋書輸入の趨勢を知るによろしく、昭和三十年以後五年毎の「アナウンスメント」によった分類別タイトル数を掲げておく。全部が輸入されたわけではなく、あるタイトルの書は全く注文がなかった場合もある。しかし、少くとも当社が顧客へ宣伝した書物のタイトルと量で、ある程度世界文化の状況を、また出版界の状態をも報じたもので、他面、日本文化の姿を示していると考えられる。

Part A は宗教・哲学・社会科学の部、Part B は自然科学・工学・医学の部、Part C は文学・語学・美術の部、Part D は昭和三十五年以後医学関係を別にしたため設けたものである。

Part A	昭和30年	昭和35年	昭和40年	Part A	昭和30年	昭和35年	昭和40年
Philosophy	288	486	576	Social Sciences, General Works, Sociology etc.	429	831	745
Psychology	203	273	356	Statistics	27	59	59
Religion	104	104	29	Political Science	269	916	1208
Education	291	465	609	Law	337	589	662
History	252	412	399	Economics	451	984	1298
Biography	241	59	6	Business Commerce, Transportation	335	624	731
Human Geography, Travels Descriptions	234	108	103	計	3563	6065	6923
Eastern Asia, Japan, China, Korea etc.	102	155	142				

Part B	昭和30年	昭和35年	昭和40年	Part B	昭和30年	昭和35年	昭和40年
Natural Sciences, General Works	29	79	41	Mechanical Aeronautical & Automotive Engineering	165	429	218
Mathematics	146	474	392	Electrical Engineering	144	470	351
Chemistry	217	373	310	Naval & Military Engineering	86	102	35
Earth Sciences, Geology, Astronomy	104	283	203	Mining & Metallurgy	112	213	156
Biology, Natural History in General	110	232	182	Chemical Technology & Manufactures	197	378	270
Anthropology, Archaeology	46	75	49	Agriculture, Gardening, Forestry	124	231	101
Botany	48	146	95	Animal Husbandry & Fishery	77	126	80
Zoology	75	147	136	Nuclear Sciences & Engineering		64	87
Engineering Technology, General Works	74	205	81	Physics	225	554	388
Industrial Economy & Management	77	225	328	Medicine	615		
Civil Engineering	69	205	147	計	*2125	5011	3650

* Medicine を除く Part D に記す

Part C	昭和30年	昭和35年	昭和40年	Part C	昭和30年	昭和35年	昭和40年
General Works, Libraries, Encyclopaedias & Bibliographies	90	105	111	Domestic Sciences & Economy	78	102	39
Fine Arts, General Works, Sculpture etc.	317	512	339	Linguistics	66	99	99
Photography & Printing	67	49	40	Languages	324	612	367
Art Industries	36	107	104	Literature, Literary History, Essays & Criticisms	590	1337	1519
Architecture	125	211	178	Fiction, Novel, Poetry, Drama etc.	884	1556	410
Music, Theatre, Ballet, Cinema, Sports & Games	258	254	190	計	2835	4944	3396

Part D	昭和30年	昭和35年	昭和40年	Part D	昭和30年	昭和35年	昭和40年
Medicine General & Miscellaneous		141	217	Pharmacology, Pharmaceuticals & Toxicology		213	196
Fundamental Medicine		324	486	Hygiene & Preventive Medicine		147	77
Medical Chemistry & Biochemistry		115	179	Clinical Medicine, Therapeutics, & Nursing		316	232

Medical Radiology	141	124	Ophthalmology, Oto- Rhino-Laryngology & Dentistry	321	340
Circulatory, Respiratory Digestive etc.	811	649	Gynaecology, Obstetrics & Paediatrics	357	334
Surgery Orthopaedics & Anaesthesia	267	294	Gerontology	24	22
Dermatology & Musculo- Skeletal Diseases	242	245	Internal Medicine	18	23
Neurology & Psychiatry	491	453	Other Related Sciences	580	164
Infectious Diseases, Par- asitic Diseases etc.	234	186	計	615	4893
Tuberculosis, Allergies & Cancers	151	95			4316

右の表によれば昭和三十年中の総タイトルは、九、一三八である。而して同年中の輸入洋書の概算総量は、七〇二、〇〇〇冊である。従って一タイトル当りの輸入冊数は七八冊余となるが、輸入しなかったものもある代り一タイトルについて大量の輸入もあるから実際はさらに多いことになる。別の角度から見ると一カ月の輸入量は概算で六万冊近い数字であった。

右のうち六〇%前後が理工学関係書で、人文・社会・美術関係書は四〇%であった。言語別に見ると、英語で書かれたものが全輸入洋書の八〇%を超えている。国別の輸入額は略するが、当社の昭

和二十六年と三十年の年度別輸入額は、右の通りである（昭和二十九年・三十年については書籍・雑誌別の輸入金額が明らかなので附記する）。

昭和二十六年 三〇七、三八五千円

昭和二十七年 五九〇、〇〇〇千円

昭和二十八年 六七二、二〇四千円

昭和二十九年 六四〇、二〇七千円（書籍 四五九、五八五千円 外国雑誌 一八〇、六二二千円）

昭和三十年 七〇九、四九四千円（書籍 四九九、六七九千円 外国雑誌 二〇九、八一五千円）

昭和三十年における輸入総金額の中、その半額に近い三億五千万円が、米国からの輸入であった。

序でに記すると、昭和三十年度中に、当社が扱った書籍の輸出総額は、一、二七六万円余で、輸出先は、主として米国・東南アジア地域であった。

四 洋書展覧会あれこれ

第一次世界大戦中、西欧交戦国に於ける書籍出版量は少なかったが、米国書の輸入には何等の障害はなかった。海上輸送は妨げられていなかったからである。第一次大戦後には、外国における新智識を吸収するために、洋書需要は非常に多くなったが、その輸入にはあまり困難がなかった。

しかし第二次大戦後は事情は異なった。すでに終戦後五年を経た昭和二十六年は、日本国憲法が公布されて五年、

対日講和条約の調印も近づき、対外貿易の制約も減じる見通しがつくといろいろな書籍を緊急に輸入する必要に迫られた。そこで当社は第二次世界大戦の回想、原因とその経過、戦後の各国の諸状況、今後の国際政治、戦時中における学問の進歩状態等々に関する書物・論文集等を輸入して、顧客に報いたいと考えた。

そのために機会あるごとに、輸入書籍選定に必要な、今まで輸入した書物の記録の整備や、新刊洋書の情報入手に努力するとともに、一方それらの顧客への伝達に力を尽した。その手段として最も重要なものは「学鑑」の発行であり、「アナウンスメント」の発行である。また「朝日新聞」紙上には、戦後昭和四十一年まで毎月一回全一段の洋書の新刊広告を掲載し、また、各大学新聞にも、その学校の特殊性を考慮しつつ、新学期前後は勿論、その他の時期にも頻繁に洋書の広告をした。そのうえ機にに応じて、海外の出版界・学会・団体の動向を察してもらうための展覧会を頻繁に開催した。それら各種の展覧会については、別巻資料編の年表に詳細に掲げられているので、ここでは、主要なものについてだけ列記しておく。

(一) 昭和二十六年

三月、本店において「米国二大出版社新刊陳列即売展」を行った。二大出版社とは、McGraw-Hill Book Co. と The Macmillan Co. の二社である。農業・経済・美術・商業・経済・財政・教育・地理・歴史・産業組織・経営・法学及法律・哲学・政治学・心理学・社会学・社会福祉・統計学等の書籍を主にした陳列即売展であった。開催日および陳列書名等は不明であるが、発行元が米国有数の書店であったので、新刊洋書の少ない中でこの各種優良米国新刊書の展示即売は文字通り旱天に慈雨の感があると好評であった。

三月二十三日―三十一日に開催された「米英書普及版展覧会」は、CIE・GHQ・SCAPの特別の好意で選
び出された約百数十の著名出版社、又は大学出版部の著名な叢書並びに文庫本、総数約三、〇〇〇点を借り受けて
開催した展覧会であった。展示された叢書・文庫は The Modern Library, Home University Library, Thinker's
Library, World Classics, Everyman's Library, Penguin Books, Pelican Books, Collector's Editions, New
American Library, Mentor Books, Signet Books, Pocket Books など十二種類に及んだ。展示した書物では、
古くから親しまれてきたものと、当時の新聞や雑誌の文芸欄や、映画などで評判になったものが一番歓迎されて大
量の注文を受け、続いて歴史・経済・美術という順で注文が相当部数に上った。何れも当社では初め予想もしな
かった結果であった。

昭和二十五年春、極めて小規模のポケット・ブックの陳列をした際には、次の書物に人気が集まった。

- Buck, P. - Good Earth. (Pocket Books)
- Mitchell, M. - Gone With the Wind. (Pocket Books)
- Maugham, W. S. - The Moon and the Six Pence. (Penguin Books)
- Maugham, W. S. - Of Human Bondage. (Pocket Books)
- Steinbeck, J. - The Grapes of Wrath. (Penguin Books)
- Dr. Spock - Baby and Child Care. (Pocket Books)
- Carnegie, D. - How to Win Friends and Influence People. (Pocket Books)
- Wells, H. G. - A Short History of the World. (Pelican Books)
- Frank, A. - The Diary of Young Girl. (Pan Books)

が、今度は、前述のように多数の出版社の書物を集め得ただけ、注文量も多かった。この展覧会については「学
鏡」昭和二十六年五月号所載、木村毅著「米英書普及版展覧会をみる」を参照していただきたい。

なお、この展覧会での好評本をあげよう。次のようである。

- Faulkner, W. - As I Lay Dying. (The Modern Lib.)
Faulkner, W. - Light in August. (The Modern Lib.)
Faulkner, W. - Sanctuary. (The Modern Lib.) (Signet Books)
Faulkner, W. - The Sound and the Fury. (The Modern Lib.)
Faulkner, W. - Intruder in the Dust. (Signet Books)
Faulkner, W. - Knight's Gambit. (Signet Books)
Huxley, A. - Antic Hay. (The Modern Lib.) (Penguin Books)
Huxley, A. - Music at Night. (Penguin Books)
Lawrence, D. H. - Sons and Lovers. (The Modern Lib.) (The Works of D. H. Lawrence
Pocket Ed.)
Lawrence, D. H. - The Rainbow. (The Modern Lib.) (The Works of D. H. Lawrence
Pocket Ed.)
Lawrence, D. H. - The White Peacock. (Penguin Books) (The Works of D. H. Lawrence
Pocket Ed.)
Maugham, W. S. - Cakes and Ale. (The Modern Lib.)
Anderson, S. - Winesburg, Ohio. (The Modern Lib.) (Signet Books)
Woolf, V. - Orlando. (Signet Books)
Forster, E. M. - A Passage to India. (Signet Books) (Everyman's Lib.) (Penguin Books)

著者の名字は三十字まで、姓は二文字まで、名は二文字まで、初名のうしろに「」を付ける。

- Tyrrell, G. N. M. - The Personality of Man. (Pelican Books)
Piggott, S. - Prehistoric India. (Pelican Books)
Hawkes, C. & J. - Prehistoric Britain. (Pelican Books)
Plumb, J. H. - England in the 18th Century. (Pelican Books)
Thomson, D. - England in the 19th Century. (Pelican Books)
Bouquet, A. C. - Comparative Religion. (Pelican Books)
Albright, W. F. - The Archaeology of Palestine. (Pelican Books)
Read, H. - The Meaning of Art. (Pelican Books)

Drury, A. - Advice and Consent. (Pocket Books)
Hemingway, E. - To Have and Have Not. (Capricorn Books)
Jarvis, D. C. - Folk Medicine. (Crest Books)
Kantor, M. - Andersonville. (Signet Books)
Ledere, W. J. & L. Burdick - The Ugly American. (Crest Books)
Lindbergh, A. M. - Gift from the Sea. (Signet Books)
Michener, J. - Hawaii. (Bantam Books)
Orwell, G. - Animal Farm. (Signet Books)
Pasternak, B. - Doctor Zhivago. (Signet Books)
Peale, N. V. - The Power of Positive Thinking. (Cedar Books)
Schindler, J. A. - How to Live 365 Days a Year. (Fawcett World Lib.)
Shirer, W. L. - The Rise and Fall of the Third Reich. (Pane Books)
Uris, L. - Exodus. (Bantam Books)

「新刊独逸書展覽会」は、西ドイツ及スイス諸出版社の協賛で、両国で戦後出版された新刊数千点を舶載して四月二十六日―五月二日に開催したものである。「学鑑」昭和二十六年四月号は、「独逸書展号」として巻頭にドイツ出版書籍業組合の「戦後の独乙出版界の歩み―丸善『学鑑』に寄す」の一文が寄せられた。戦後ドイツの出版界の状況、戦後一九四五年以後における西ドイツ出版界の回復状況などを紹介、ドイツの世界からの隔絶が消えて漸く旧に復しつつあることを次のように述べている。

十年の余に亘り独乙は時が移るにつれて四圍の世界から隔絶されることが甚しくなり、精神文化生活の発展に不可欠の交易が遂には窒息してしまったのであった。この交易の担当者こそ先ず第一に書籍と雑誌である。

一九二四―三七年間の平均では、書籍雑誌の独乙向輸入は一四〇〇万 Mark 余、輸出は四四〇〇万 Mark 余であった。輸出された書籍雑誌の最大量は科学及び専門文献であったが、またこの印刷された言葉は海外居住の人々と故国とのつながりを物語るものであった。独乙書籍雑誌の輸出は一旦崩壊した後に残んど克服の出来そうもない障碍に直面したのである。併しながら強じんな活動力を以て、独乙の出版社及び書籍輸出商は、既に一九五〇年に於て、困難な材料不足の中にもこれに打勝ち競争に落伍しないだけの条件を充たし得て、戦前のそれには未だ距離があるにせよ約一九四一万 DM に上る書籍・雑誌・楽譜・地図の輸出再現を成就したのである。

一九五〇年の新刊・新版中四分の一たらずが文学と青少年向読物、二分の一余が各科目に亘る科学文献で、その

中では工学と他の応用科学関係の書が数字的には第一位、以上のものを除いた残りの出版物が一般教養書・各種日常読物・スポーツ書・その他であると書いている。

この展覧会の陳列書籍中、物理・化学・農業関係の三部門について、次の諸氏の解説を掲載した。

戦後に輸入されたドイツ化学書を見て
東京大学教授 白井俊明

ドイツ語の物理学書を手にして
東京大学助教授 高橋喜久雄

農学関係のドイツ新刊書
東京大学教授 中村賢太郎ほか四名

(二) 昭和二十七年

四月から一週間「英国マクミラン出版書籍即売展」を催した。これは、三階の画廊を使用しての催しではなく、洋書売場の一部を利用して展示した。良書出版で著名なマクミラン社の展示即売であっただけに好評であった。

「学鑑」昭和二十七年六月号に松宮俊一の「英国マクミラン出版書籍即売展を覗きみて」の寄稿がある。

この時の展示書の主なるものは次の通りである。

Harrod, R. F. - A Toward to Dynamic Economics. 1948

Keynes, J. M. - Treaties on Money. 2 vols., 1930

Pigou, A. C. - Keynes "General Theory": A retrospective view. 1950

Pigou, A. C. - The Veil of Money. 1949

Pigou, A. C. - Socialism versus Capitalism. 1937

Pigou, A. C. - Aspects of British Economic History 1918-25. 1948

- Pigou, A. C. - A Study in Public Finance. 3rd ed., 1951
- Allen, R. G. D. - Mathematical Analysis for Economists. 1950
- Black, D. - The Incidence of Income Taxes. 1939
- Cole, G. D. H. & A. W. Filson - British Working Class Movements. Select Documents 1789-1875. 1951
- Cole, G. D. H. - Essays in Social Theory. 1950
- Mackenzie, K. - The Banking Systems of Great Britain, France, Germany and the United States. 1947
- Robbins, L. - The Economic Problem in Peace and War. 1950
- Robbins, L. - The Economics of Imperfect Competition. 1950
- Stephen, J. F. - Digest of the Law of Evidence. 1948
- Crump, N. - The ABC of the Foreign Exchanges. 11th ed., 1951
- Ansley, A. J. - An Introduction to Laboratory Technique. 1950
- Klein, L. R. - The Keynesian Revolution. 1950
- Carr, E. H. - Conditions of Peace. 1944
- Leage, R. W. - Roman Private Law. 2nd ed., 1951
- Bryce, J. V. - The Holy Roman Empire. 6th ed., 1950
- Chester, D. N. - Central and Local Government, Financial and Administrative Relations. 1951
- Malthus, T. R. - First Essay on Population, 1798. 1926
- Smith, N. K. (tr.) - Immanuel Kant's Critique of Pure Reason. 1950
- Frazer, J. - The Golden Bough, A Study in Magic and Religion. 1950
- Nesfield, J. C. - Modern English Grammar. 1949
- Nesfield, J. C. - Key to Modern English Grammar. 1951

- Nesfield, J. C. - Oral Exercises in English Composition. 1951
- Nesfield, J. C. - English Grammar, Past and Present. 1949
- Cook, A. M. & W. E. P. Pantin - Macmillan's Shorter Latin Course. 1st Part, 1886
- Cook, A. M. & W. E. P. Pantin - Macmillan's Shorter Latin Course. 2nd Part, 1948
- Cook, A. M. - Macmillan's Latin Course. 1st Part, 1951
- Cook, A. M. & W. E. P. Pantin - Macmillan's Latin Course. 1947
- Rutherford, W. G. - First Greek Grammar, Accidence and Syntax. 1949
- Bartlett's Familiar Quotations. 12th ed., 1949

THE GLOBE EDITION

- The Poetical Works of Samuel Taylor Coleridge. 1893
- The Poetical Works of William Cowper. 1870
- The Iliad of Homer. 1935
- Poetical Works of Alfred Lord Tennyson. 1933
- The Complete Poetical Works of William Wordsworth. 1924

GOLDEN TREASURY SERIES

- The Republic of Plato. 3rd ed., 1892
- Selected Poems of Thomas Hardy. 1950
- A Treasury of Seventeenth Century English Verse. 1919
- Rubaiyat of Omar Khayyam. 1909
- Wordsworth, W. - The Prelude. 1932
- Hilton, J. - Lost Horizon. 1949



戦後第一回海外新聞雑誌見本展

Hilton, J. - Knight without Armour. 1949

Hilton, J. - Morning Journey. 1951

Hiscock, W. G. - John Evelyn and Mrs. Godolphin. 1951

Blunden, E. - After the Bombing and Other Short Poems 1949

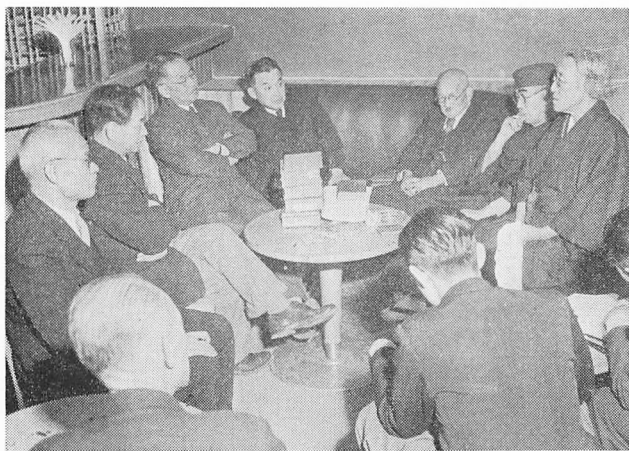
ENGLISH MEN OF LETTERS (New Pocket Edition)

THE SCHOLAR'S LIBRARY

MACMILLAN'S ENGLISH CLASSICS

当社が、戦後初めて翌年度予約のための「海外新聞雑誌見本展示会」を開いたのは、昭和二十五年十月二十五日から十一月九日までであった。欧米諸国においては、当時、研究・情報の部門も極めて深化・細分化され、定期刊行物の数も著しく多数になっていたにも拘わらず、それら定期刊行物についての当社の調査はまだ充分といえず、見本収集の業務面でも不備があり、展示した定期刊行物の数は未だ充実にいなかった。この展覧会は本店終了後、各支店へ巡回して開催した。毎年、海外新聞雑誌展示会を本・支店で催すことは、第二次大戦前から行われており、戦後においても、このとき以後毎年恒例となった。

(三) 昭和二十八年



「学鐙」創刊 50 年記念座談会（左から 司・
浦松・水島・嘉治・岡田・柳田・長谷川）

昭和二十八年一月「学鐙」は、創刊以来満四十九年を経過して第五十巻第一号を発行した。そして三月三十日から四月十五日の二週間、「学鐙五十年展」を開催した。有名雑誌で、この時点で五十年の歳月を経たものは、「中央公論」、「東洋経済新報」、「実業の日本」ぐらいで、書籍販売業者の宣伝雑誌としては、「学鐙」だけである。博文館は、「学鐙」創刊と同じ頃「図書世界」という雑誌を創刊して、自社出版書の宣伝をするばかりでなく、徳川時代の出版法、出版界の傾向なども掲載していた一寸面白い雑誌であったが、二、三年で、自社出版物の目録のようになって廃刊している。その後もあまり、この種の雑誌では整ったものはなく、「学鐙」は唯一の明治生き残りの雑誌である。当社では、その回顧のために長谷川如是閑、嘉治隆一、水島三一郎、岡田武松、柳田国男、浦松佐美太郎の諸氏を招いて昭和二十七年十二月三日、司社長と共に洋書回顧談を行った。当社で買った本の話、戦災で本を焼いてしまったのでまた集めている話、稀観書の話、いろいろの叢書の話など、到底、一夕で尽きることはなかった。因に長谷川如是閑と司社長は、同氏が

日まで本店で開いた。

これは、ゴッホ研究家として内外に知られた精神病理学者の式場隆三郎が、前年六月から十月末までヨーロッパ各国を巡回し、ゴッホ関係資料をたずね求めた文献等五百点余を中心に開催したものである。その中には大判の原色版複製画百点、それに資料五十点余も含まれていた。ヴァン・ゴッホの生誕百年祭は、オランダ、ドイツ、パリなどで盛大に催された。わが国でも、三月三十日の夜は、東京朝日新聞社講堂で、「フランス文化の会」の主催で記念祭が行われ、武者小路実篤、滝沢修、式場隆三郎の三氏による講演会を行った。

本店での展覧会の最終日五月十六日には、武者小路実篤、中村研一、式場隆三郎、土岐善麿の四氏を招いて当社で座談会を開いた（『学鑑』昭和二十八年六月号所載）。なお、ゴッホの日本への移入については本社史第二編・第三編に記述されている。



「ヴァン・ゴッホ展」目録

「大阪朝日新聞」へ入社の際からの知り合いで、当時大阪支店の外勤社員であった司社長にたいそう好意を寄せられ、以来歿時にまで及んだという。この時にはマイクロフィルムは未だ殆んど利用されていなかったが、この会では、マイクロフィルムにまで話が及んだ。

「学鑑」の果たした役割については、「学鑑」昭和二十八年三月号で春山行夫が紹介している。

次いで「ヴァン・ゴッホ生誕百年記念展覧会」を五月十一日から十六

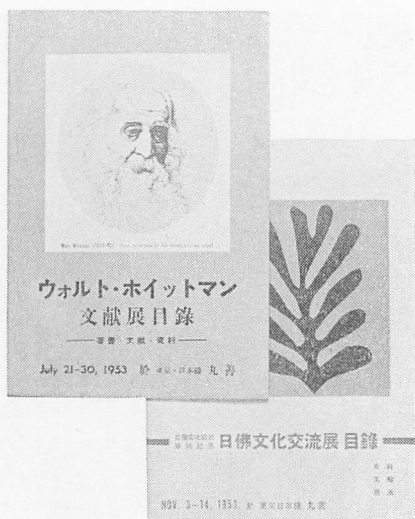


「ヴァン・ゴッホ展」につめかけた人の波

この展覧会は大変に盛会であった。当時の「三田評論」の中村精編輯長の参観記事が「学鑑」に載っているが、それによると、参観者は連日超満員であった。ことに最終日の十六日（土）は、来観者は会場に溢れて、三階の会場入口からえんえん列をつくって二階・三階に登る階段を埋め、更に正面入口から外に曲っては日本橋の舗道にまで立ちつくしていた。そして観客は、学生、サラリーマン、男女いろいろの階層の人を網羅していたとも記している。用意した目録は、忽ち売れ切れ、大急ぎで増刷したが、それも直ぐ売り切れて、最後は目録がなかったという。この年七月二十一日から三十日の十日間に亘って、米国最大の詩人といわれている「ウォルト・ホイットマン文

献展」を本店で開催した。そして七月二十五日には、石井満、木村毅の講演会を催した。また白鳥省吾、長沼重隆、式場隆三郎らの「学鑑」昭和二十八年七月号への寄稿があった。また昭和三十年五月号の「学鑑」には石井満の「草の葉百年記念」と長沼重隆の「草の葉百周年記念行事と刊行書」の寄稿がある。

「日仏文化交流展」は、十一月三日から十四日まで、本店で開催された。これは、わが国の無数の文化団体の横の連絡をはかるため、この年秋創始された「文化懇話会」の幹旋によるものである。創立当時の委員は藤山愛一郎、武



「ホイットマン展」「日仏文化交流展」目録

話会、国際文化振興会、東洋文庫の共同主催、外務省、フランス大使館、国立国会図書館の後援で開かれたものであった。維新前から開催当時に至るまでの両国文化交流に関する文献、資料、絵画など五百点余を陳列した。

(四) 昭和二十九年

生誕八十年を記念して「サマーセット・モーム作品展」を二月十五日―二十日の六日間、本店で開いた。「学鑑」昭和二十九年三月号では英国文化振興会のR・W・マッカルパイン(英国文化振興会役員)が「サマーセット・モーム」(高嶋慶三訳)を寄せて、モームの業績を簡単に紹介した。日本では大正末年から相当に広く知られ、その小説も輸入していたが、人気の盛り上ったのは、戦後であった。モームの作品は英国書輸入が始まると同時に入荷

藤仕叟、堀内敬三、中島健蔵、伊原宇三郎、太田黒元雄、今泉篤男、井上庚二郎、石橋幹一郎、石井漢、谷口吉郎、石川欣一、辰野隆、伊藤道郎、植村鷹千代、北村喜八、牛原虚彦、益田義信、渡辺紳一郎、松方三郎、式場隆三郎、田付たつ子といった文化・芸術界の知名人らで、司社長もその一員として、事務所を本店九階に置いた。そして、その最初の仕事として二つの展覧会を開いた。一つは九月二十八日―十月三日の「写真文化史展」で、いま一つは前記の「日仏文化交流展」である。後者は、日仏文化協定締結記念のために文化懇

し、これまで開催された英国書展には陳列してきたが、モーム個人の作品展は、この時が最初であった。

二月二十二日から三月六日まで「ガリマール出版社展示即売会」を、本店三階売場で開いた。同社はフランスの代表的出版社として、また瀟洒な感じの書籍の出版で、日本でも親しまれている。ガリマール社の出版物を選選した即売会は、此の時が最初であった。

「東西ドイツ図書展」を六月七日―六月十二日に開催した。さきにドイツ書の輸入についてその困難な事情に触れた。しかし、昭和二十五年頃には戦前に勝るほどに出版物は増加し、東ドイツの出版書も多く輸入できるようになり、英・米に次ぐ輸入量になっていた。そこで当社は、西ドイツは勿論東ドイツの出版社二百有余の協力を得て、新刊並に代表書を網羅し、且つ雑誌類を集め合計五、〇〇〇点を展示、一般の展覧に供した。そして「学鑑」昭和二十九年六月号をその特輯号として「ドイツ再興の息吹き」と題し高橋正雄、本田欣哉、豊田利幸、奥野久輝、長沢不二男、吉田久等の、また「ドイツ出版界の現勢」と題して、高橋健二、上原専禄、村瀬興雄、高見沢栄寿、勝見勝、小宮曠三、海老原晃、高橋功等諸氏の寄稿を掲載した。

この展覧会は六月十七日から二十二日にわたって名古屋支店で、六月二十八日から七月三日までは大阪支店で開いたが、いずれの場合にも全ドイツ出版物が一堂で展望出来るということで非常な好評を博した。

「エヴェレスト写真展」七月九日―十七日開催。これは、一年前、John Hunt を隊長としたイギリスのエヴェレスト登山隊が、世界で初めてエヴェレスト山頂の登攀に成功したときの写真を、同隊長の手で編集・発売されたものが入荷したのを記念に催したもので、この時併催した「山の本の展示会」は当時経理部次長であった当社的小

林義正が中心になって準備したものである。小林は登山愛好家であり、山に関する文献のコレクターとして特に世に知られていた。この頃から日本人の登山熱は史上空前の盛況を見せはじめた。

昭和二十九年最後の洋書展覧会は、十二月十三日から十八日までに開催された「洋学ことはじめ展」であった。この展覧会は、緒方洪庵の令孫である緒方富雄が長をしている蘭学資料研究会の主催で、文部省、オランダ大使館、上野図書館（のちの国立国会図書館上野支部）の後援で開催したもので、当社はその企に賛し三階画廊を会場に提供した。詳しくは同会が編輯発行した *Catalogue of the Books Exhibited at the "Yogaku Kotohajime Ten"* を参照していただきたい。また「学燈」昭和二十九年十二月号には板沢武雄の「江戸時代に於ける洋書輸入と現存状況」の寄稿がある。

(五) 昭和三十年

四月一日から七日まで、京都支店で「欧米医学書展」を開いた。この年第十四回日本医学会総会が京都で開催されたのに並行して、欧米各国の医学書中特に著名な新刊書を選んで陳列した。この展覧会は四月十三日から二十日まで名古屋支店で、最後に四月二十五日から三十日まで本店で開催したが、何れも関係筋の方々に大いに喜ばれた。尚、この展覧会で戦後初めて医学書の英・独二冊のカタログを作成することが出来たことは関係者一同にとっても忘れられないことであった。この展覧会で好評であった書名は後述の好評の洋書・医学書の項を参照していただきたい。

この展覧会は、この後四年に一度開催される日本医学会総会の開催地の本支店で、必らず開くこととなった。な



戦後最初の医学書カタログ

お昭和四十六年の第十八回日本医学総会からは和書の陳列も始めた。

六月一日から十一日まで本店で開いた「フランス新刊書展示即売会」は、主として法律・経済・地理・歴史・文学・文化・芸術その他社会・人文科学一般の新刊三千点以上を陳列し、フランスの文化・思潮の展望に貢献出来ればと計画したものであった。そのために「学鑑」昭和三十年六月号は「フランス特集」として、各部門の方々に執筆を依頼した。また展覧会中の六月四日には辰野隆、渡辺一夫両氏による講演会を開いた。

この展覧会は文化科学・自然科学の別なく、広くフランス文化一般に関心ある人々の来店があり好評を博した。

この年十月三十一日から十一月五日まで本店において「第二回オックスフォード大学出版部代表圖書展示会」を開いた。前年十月、「第一回オックスフォード大学出版部圖書展示会」を催しているが、今回の展覧会は前回十一月に大阪支店で開催、京阪神の方々に大層喜ばれた。やはり英国書の経験から更に充実したものとなった。なかでオーソドックスな同大学の出版物に対する信頼を示したものといえる。

附 「本の図書館」開設

ここで、当社の「本の図書館」の開設について記しておきたい。

「本の図書館」設置の構想は、日華事変の頃から取締役・洋書仕入部長を兼任していた山崎民雄が、かねてからの夢として描いていた。昭和十五年、当時社長の金沢末吉に提言して以後毎年一定額の予算で蒐蔵本の継続購入の許可を得て発足したものである。以来山崎の下にいた八木佐吉・桜井喜代志の両名が主として蒐集の任に当り、戦時中はその蒐集した書物を山梨県塩山へ疎開、幸いに戦禍を免れた。終戦後、疎開地からそれらの書物を返送し、その後司社長のよき理解の下に更に内容を充実して、前述の通り本店新館の落成に当って昭和二十九年一月一日「本の図書館」が開設されたのである。

遺憾なことに、「本の図書館」の発案者である山崎民雄は、昭和二十年三月二十一日に、茅ヶ崎で病気のため長逝した。山崎の略歴は第三編に既述されているので省略するが、関東大震災後は、洋書の調査・洋書輸入の選択の仕事に生命をかけた観があった。その最後の際にも「本の図書館」の実現を言い遺したという。

「本の図書館」の目的は、「主として顧客の研究の便に供すること、社員の洋書に関する知識の涵養に資すること」にあった。

その位置・蔵書内容は次のようであった。

場所 本店三階西側の一室（現在七階西側の一室）

開館日及び時間 月・水・木・金・土（火・日休）

主なる蔵書—和洋書籍文献・外国雜誌見本・外国の教科書

閲覧料 無料 但し貸出は厳禁

公開初日 二月八日

初代館長 中村春太郎

今、少しく、初代館長 中村春太郎の「丸善本の図書館に就て」という手記から蔵書内容等を抜萃しておく。

最初は二つの目的のもとに蒐集したものが基本となっている。その一つは当社が世界一の書店として誇ることの出来る様に世界各国のあらゆる種類の本が居ながらにして判明、そして質問にも答えられる様に計らう為



丸善本の図書館

め、総ての書誌 (Bibliographies) の蒐集が行われたし行われつつあるのが現状である。も一つは、社員の常識を養う目的を以て必要と思われる材料として本に附随する紙、印刷、製本その他エクспリス (蔵書票)、目録の作り方や各国の傾向に就ての文献類を購入し社員諸君に貸与したものが集って今日となっている。この基本に次で大切なのは世界の出版社の記念出版物の寄贈の集りで、たとえば独逸のレクラム社が百年記念に出版したレクラムの歴史の如き所謂市販しない発行物のコレクションも文化裏面史として大切に保管しているのが現状である。



中村 春太郎

以上、蒐書の目的とその内容の概要を説明したのち、更に蒐書の内容に触れて

日本・支那・朝鮮等を中心にした文献では有名なコルディエ (Cordier) が揃っている。それに附随してフィリップンの文献や充分とは云へないが東南アジア地方やアジア全域に渉るキリスト教布教史の文献類が揃い或は現に揃えつつある。

全英国出版物の殆どを集めたと言はれる大英博物館図書館 (British Museum) の Printed Books の一大コレクションも目下揃えてあるし、一八〇一年以来の English Catalogue も大部分揃ってて英国出版物に関する限り先づ判明しないものはないと確信する。米国に就ては比較的年代が新しいが、Cumulative Index が一九〇八年位から以後揃っているの、大部分の出版物に就ての検索は可能である。

ドイツ書も同様であるが、同国は二回に渉る世界大戦で、その期間国交が止ったため、本国で出版を中止したり或は途中購入不能等のため、欠けたものが多く、不充分で、目下その補充に就ては懸命に努力中である。フランスに就て少々同様の気味が見られるが、Lorenz の文献等は一八六〇年来の出版物は調べることが可能である。(下略)

中村の文章はまだ続いているが要領は以上である。これ以外の諸国についても史料を揃えつつあること、書物そ

もののほか印刷・製本・製紙関係等の史料をも揃え、一方、社員の実務向上のために『Anatomy of Bibliomania から Great Books まで揃えつつあることを記している。

要するに中村の意見では、顧客および社員に対してレファレンス図書館としての質を「本の図書館」が果すよう期したのであった。以来、その精神で同館の運営を図っている。

中村春太郎は、明治二十七年十月二日東京に生れ、明治四十年四月入社、生来の本好きで、次第にその知識を深め、昭和八年二月には洋書売場長となり、昭和十八年二月には、専門図書館協会による海外図書蒐集員として外務省嘱託となり外国へ派遣されたこともある。要するに当社では屈指の洋書通になっていて、戦後も洋書販売関係の職場を歴任した。復刊後の「学燈」掲載の「売場の一隅から」は中村の筆である。売場長時代が長かっただけ、戦後の洋書の流れを肌で感じていた貴重な人で、初代の「本の図書館長」としては、最適任の人であった。

昭和二十九年十月末、定年退職、その後は嘱託として本の図書館長を続け、昭和三十七年十一月退職、その後は非常勤参与として昭和四十六年二月末日に至ったが、病歿した。

二代目の本の図書館長は八木佐吉である。昭和四十年九月一日就任、昭和四十六年十月三十一日停年退職後も参与としてその職にある。明治三十六年八月生れ、大正五年四月入社、洋書部門・出版部門に携わり、洋書管理部長・和書部長等を経て現在に至っている。書誌通として広く知られている。

五 好評の洋書

どのような洋書を輸入販売したか、具体的に系統だてて記述することは困難なことである。が、大体の趨勢としては、理工学書、医学書、社会科学書、文学書、語学書、という順でよく売れた。社会科学書では経済学・経営書の需要が多く、情報関係などを除いて純然たる法学・政治学関係書は、他の社会科学書に比べると少々緩慢な売れ行きであった。医学書を除いた自然科学・工業技術書となると、実用的な書物が、原理的なものよりも売れ行きがよかった。これも自明のことであるが、戦後の著述は自然科学と社会科学とを問わずその異常な進歩、深化によって内容が極めて密度が高くなっているということである。

(一) 辞典類に就いて

戦後はじめて“The Concise Oxford Dictionary of Current English”が輸入されたのは昭和二十五年で、その時には山積された同辞典が忽ち売り切れたことは既述したが、その後の辞書の売れ行きも素晴らしいもので、全十三巻の“The Oxford English Dictionary”も、昭和二十八年に初入荷した際も、相当高価であったにも拘わらず非常によい売れ行きであった。

戦後、最初に入った百科辞典は“New Chamber's Encyclopaedia”全十五巻であった。つづいて同年“The New (1945-1950) Everyman's Encyclopaedia”全十二巻（第三版）が入荷した。初版は一九一三—一九一四年の発行で、また一九六七年には第五版を出すという景況であった。“Encyclopaedia Britannica”が、戦後初めて

入荷したのも、昭和二十六年であった。

フランスの辞典では、“Nouveau Larousse Universel Dictionnaire Encyclopédique”（二巻）が、輸入された。昭和二十五年のことであった。

ドイツの“Der Grosse Brockhaus”全十二巻の全改訂新版は、昭和二十八年に輸入されているが、昭和二十六年には“Der Kleine Brockhaus”が入りつつあった。

ここでよく売れた辞典類を記して見ると次のようである。

Fowler, W. H. & F. G. (eds.) - The Concise Oxford Dictionary of Current English. 4th rev. ed., 1951, Oxford U. P.

Fowler, F. G. (ed.) - The Pocket Oxford Dictionary of Current English. 4th rev. ed., 1952, Oxford U. P.

The Encyclopedia Americana. 30 vols., 1950, Americana

Jones's an English Pronouncing Dictionary. 10th rev. ed., 1953, Dent

The Oxford English Dictionary. 13 vols. incl. suppl. vol., 1952, Oxford U. P.

Encyclopaedia Britannica. 24 vols. with an Atlas, 1951, Encyclopaedia Britannica

Mathews, M. M. (ed.) - A Dictionary of Americanism on Historical Principles. 2 vols., 1951,

Univ. of Chicago Pr.

Webster's Dictionary of Synonyms. 1951, World Pub.

Wyld, H. C. (ed.) - The Universal Dictionary of the English Language. 1952, Routledge

(二) 哲学・宗教関係

敗戦後の日本国家否日本社会はどうあるべきか。この問題を、最も根深く探ねようとして読まれたのが、哲学や宗教関係の書物であった。そして、それは、いまでも続いているともいえよう。

では、どのような哲学者、もしくは思想家のものがよく求められたのであろうか。ソクラテス、プラトーン、アリストートル、デカルト、ルソー、カント、ヘーゲル、ヒューム、ロックなどの主著が求められた。同時に、ラッセル、デュウイなどの著作は長い期間良い売れ行きを見せていた。フッサール、ヤスバースなどの哲学書が新生面を開いて来た。唯ウインデルバルトやリッケルトの哲学書は戦後はあまり省みられなかった。

なお、この部門で注目すべき思想家として雑誌「理想」(昭和二十九年六月号)では、このほかに次の人々をあげている。

オルテガ (Ortega, G.)、トラエルシュ (Traelsch, E.)、マリタン (Maritain, Y.)、ライル (Kyle, G.)、ルイス (Lewis, C. IL.)、バルト (Barth, K.)、ムーニエ (Maurier, E.)、ニーバー (Niebuhr, R.)、ベルジャマン (Berdyaev, N. A.)、ホワイトヘッド (Whitehead, A. N.)、レヴィン (Levin, K.)

ここで、英・米・独・仏の戦前、戦後を通じてのロングセラーの哲学・宗教関係書を挙げておく。

(a) 哲学

Kant, I. - Kritik der reinen Vernunft.

Kant, I. - Kritik der praktischen Vernunft.

- Kant, I. - Kritik der Urteilskraft.
- Hegel, G. W. F. - Phänomenologie des Geistes.
- Hegel, G. W. F. - Enzyklopädie der philosophischen Wissenschaften im Grundrisse.
- Hegel, G. W. F. - Wissenschaft der Logik. 2 Bde.
- Husserl, E. - Husserliana. Bd. 1-16.
- Heidegger, M. - Sein und Zeit.
- Jaspers, K. - Philosophie. 3 Bde.
- Nietzsche, F. - Also sprach Zarathustra.
- Nietzsche, F. - Die Geburt der Tragödie aus dem Geiste der Musik.
- Vorländer, K. - Geschichte der Philosophies. 3 Bde.
- Aristotle - Metaphysica.
- Aristotle - Ethica Nicomachea.
- Plato - The Republic.
- Plato - The Dialogue.
- Descartes, R. - Discours de la Méthode.
- Pascal, B. - Pensées.
- Rousseau, J. - Du Contrat Social.
- Rousseau, J. - Émile ou de l'éducation.
- Bergson, H. - L'évolution créatrice.
- Bergson, H. - Matière et Mémoire.
- Merleau-Ponty, M. - Phénoménologie de la Perception.
- Merleau-Ponty, M. - Sens et Non-sens.
- Sartre, J. - L'être et le Néant.

- Sartre, J. - L'existentialisme est un Humanisme.
 Foucault, M. - Les Mots et les choses.
 Foucault, M. - L'Archeologie du Savoir.
 Hume, D. - Treatise of Human Nature.
 Locke, J. - Essays Concerning Human Understanding.
 Wittgenstein, L. - Tractatus Logico-Philosophicus.
 Dewey, J. - The Public and its Problems.
 Dewey, J. - Logic: The theory of inquiry.
 Russell, B. - Human Society in Ethics and Politics.
 Russell, B. - Our Knowledge of the External World.
 Russell, B. - A History of Western Philosophy.
 Russell, B. - Mysticism and Logic and Other Essays.
 Russell, B. - The Analysis of Mind.
 Russell, B. - The Scientific Outlook.
 Russell, B. - Authority and the Individual.
 Stevens, S. S. - Handbook of Experimental Psychology.

(b) 宗教

- The New English Bible.
 Hoffer, J. - Christentum und Menschenwurd.
 Sellmair, J. - Humanitas Christiana, Geschichte des christlichen Humanismus.
 Suzuki, D. - Essays on Buddhism.
 Suzuki, D. - Zen and Japanese Culture.

(三) 歴史・伝記

戦争の後では、まず、その経過を辿る戦史が編まれる。その原因を知るために、また戦後の動向を予測するためにも関係国の戦前の諸情勢が調べられる。そして関係者の回顧録や伝記が編まれ発表されるのが普通である。

第二次大戦は世界を巻き込んだ大戦争であっただけに未開発諸国の歴史や、古代に遡っての研究までも従来になり関心を以て渉猟された。中近東、東南アジアの史的研究や、インカ文明やアンデス文明の調査研究が、第二次大戦後ほど盛んになったことは、會てなかった。それは、当社の「アナウンスメント」の歴史部門“Eastern Asia”の一項を見ても推察が出来る。

こうした事情から、歴史の研究が年とともに盛んになっていた。輸入された史書類は多かったが、ここでは、注目を受けた書籍を若干挙げておこう。

The Oxford History of England. 15 vols., Oxford U. P.

The New Cambridge Modern History. 14 vols., 1957, Cambridge U. P.

Carr, E. H. - What is History. 1961, Macmillan

Carr, E. H. - History of Soviet Russia: The Bolshevik Revolution, 1917-'23. 3 vols., 1950-'52, Macmillan

Churchill, W. S. - The Second World War (1948-'53). 6 vols., 1959, Houghton Mifflin

Nehru, J. - Glimpses of World History. 4th ed., 1949, Benn Bros.

Troybee, A. J. - A Study of History. 10 vols., 1935~1954, Oxford U. P.

Trevelyan, G. M. - British History in the 19th Century and After (1782-1919). 2nd ed., 1937,

Longmans

Trevelyan, G. M. - Lord Grey of the Reform Bill. 2nd ed., 1929, Longmans

Trevelyan, G. M. - England under Queen Anne (1930-4). 3 vols., 1930, Longmans

Trevelyan, G. M. - History of England. 3rd ed., 1945, Longmans

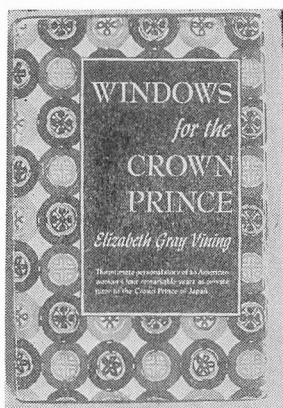
前述の雑誌「理想」では、このほかに、ドウソン (Dawson, C. H.)、バターフィールド (Butterfield, H.)、マイネッケ (Meinecke, F.) があげられており、マイネッケの著書も徐々にではあるが受注が増加していった。昭和三十三年になって、新しい「マイネッケ全集」全巻の刊行が開始された。

(四) 日本及び東亜関係

日本及び東亜関係の洋書の増加は、第二次大戦後とくに著しい。マルコポーロの「東方見聞記」以来、日本に関して書かれた洋書は決して少なくないことは、よく知られたことである。また、いわゆる探險時代から画かれた地図も多い。それらについては、戦後だけでも何回か展覧会を開いた。特に、昭和二十七年三月、渡辺紳一郎の蒐集品を中心に開いた「欧版日本古地図展覧会」、同年十二月に開いた「きりしたん版を中心とした日本及び東亜関係古文獻展覧会」などは、東西交渉の史的回顧の復活という当時の時流に沿って催したもので、広く注目且つ賞讃されたものであった。

以下、我が国を主に朝鮮・中国関係でよく売れた洋書を列举しておきたい。

それらの中で、誰彼というのでなく、広く一般に読まれたのは、皇太子の教育係の一人であったヴァイニング女



“Windows for the Crown Prince” ヴァイニング夫人（共同提供）

史の書かれた「皇太子の窓」“Windows for the Crown Prince. 1952, Lippincott”ではなかったであろうか。

この書については、「学鐙」（昭和二十七年六月号）で木村毅が紹介しており、小泉一郎訳で文藝春秋社が発行した時に、皇太子輔育の重責にあった故小泉信三が、ヴァイニング女史の希望で寄せた序文で、次のように記している。

今まで外部に対して全く閉ざされていた日本の皇室―両陛下を中心とし、当時はまだ御存生中であつた皇太后陛下（筆者注 大正天皇の皇后・貞明皇后）、皇子内親王方を以て成る皇室の御日常を、至近距離から観て描いた最も真実で且つ美しい絵画を、始めて世に示したという点で、夫人以外の誰れにも書くことの出来なかつたものである。

またこの書は「或る意味では日本人自身が、このアメリカの一婦人のおかげで自分たちの戴く皇室の御日常を知ることが出来たといふことができる」と述べている。

左記にあげた書籍のうち、マードックと山県五十雄の「日本史」、アーネスト・サトーの“A Diplomat in Japan”、サンソムの“Japan”、エンブリーの“Suye Mura: A Japanese village”、ハーバート・ノーマンの“Japan's

Emergence as a Modern State”について、すでに終戦前からよく知られていて輸入を要望されていた書物であったが、入荷したのは戦後の印刷本である。序でながら記すと、オックスフォード大学ではアジア関係の貴重書書のリプリントを計画し、アーネスト・サターの “*A Diplomat in Japan*” ボンバーの “*Jan Compagnie in Japan 1600-1817*” などを複製している。終戦前の駐日米國大使のシムスターの “*Ten Years in Japan*” は、原書入荷以前に毎日新聞社から石川欣一訳の邦訳が出版されていた。

韓国関係は、いずれも、朝鮮戦争発生後の出版である。

Benedict, R. - *The Chrysanthemum and the Sword; Patterns of Japanese Culture*. 1946, Houghton Mifflin

Bisson, T. A. - *Zaibatsu Dissolution in Japan*. 1954, Univ. of California Pr.

Bowie, H. P. - *On the Laws of Japanese Painting*. 1951, Dover

Colbert, E. - *The Left Wing in Japanese Politics*. 1952, Inst. of Pacific Relations

Embree, J. F. - *Suye Mura: A Japanese village*. 1946, Routledge

Grew, J. C. - *Ten Years in Japan*. 1944, Simon & Shuster

Keene, D. - *The Battle of Coxinga, Chikamatsu's Puppet Play, its Back Ground and Importance*. (Cambridge Original Series No. 4) TAYLOR'S Foreign Press. 1951, Cambridge U. P.

Keene, D. - *Japanese Literature: An introduction for western readers*. 1953, John Murray

Keene, D. - *The Japanese Discovery of Europe, Honda Toshiaki and Other Discoverers*, 1720-1798. 1952, Routledge

Lockwood, W. W. - *The Economic Development of Japan: Growth and structural change*, 1868-1938. 1955, Princeton U. P.

Murdoch, J. & I. Yamagata - *A History of Japan Kobe and London, 1903-'26*. Reprint, 1926~1949, Routledge

Norman, E. H. - *Japan's Emergence as a Modern State*. 1940, G. Allen & Unwin

Sanson, Sir G. - *A History of Japan, 1615-1869*. 3 vols., 1958~'64, Stanford U. P.

Sanson, Sir G. - *Japan in World History*. 1952, G. Allen & Unwin

Sanson, Sir G. - *The Western World and Japan*. 1950, Cresset Press

Satow, E. - *A Diplomat in Japan*. Reprint 1968, Oxford U. P.

Smith, T. C. - *Political Change and Industrial Development in Japan : Government enterprise, 1868-1880*. 1955, Stanford U. P.

Swearingen, R. & P. Langer - *Red Flag in Japan*. 1952, Harvard U. P.

Oliver, R. T. - *Why War Came in Korea*. 1950, Fordam U. P.

Spector, Dr. Ivar - *Soviet Strength and Strategy in Asia*. 1950, Superior Pub.

Korea and the United Nations. 1956, United Nations Pub. No. 1950

Lautensach, H. - *Korea : Land-Volk-Schicksal*. 1950, Köehler

Eckardt, A. - *Wie ich Korea Erlebte*. 1950, Lutzeyer

(五) 社会科学関係

(a) 社会学

Seligman が編集責任者となって編纂した「社会科学辞典」については、すでに第三編第十二章で記された通り、当時、斯学界で最も尊重されたものであるが、一九五三年 Johnson 博士によって再編され、八巻本として発行された。その入荷が報ぜられると、学校・研究所から注文が殺到、本支店を通じて驚くばかりの注文をうけた。

Johnson, A. (ed.) - Seligman's Encyclopaedia of the Social Sciences. 8 vols., 1953, The Macmillan
company 図鑑や辞書のコンピレーション

Beckerath, Dr. C. Brinkmann & andere (Hrsg.) - Handwörterbuch der Sozialwissenschaften. 6 Bde.,
1954, Vandenhoeck & Ruprecht

があった。

以下、この項好評であった書名を挙げて置く。

- Cole, G. D. H. - A Short History of the British Working-Class Movement 1789-1947. New ed.,
1947, G. Allen & Unwin
Cole, G. D. H. - Studies in Class Structure. 1955, Routledge
Drucker, P. F. - The New Society. 1950, Harper & Row
Durkheim, E. - The Rules of Sociological Method. 1950, Free Press
Gerth, H. & C. W. Mills - Character & Social Structure. 1954, Routledge
Homans, C. C. - The Human Group. 1951, Routledge
Mannheim, K. - Man and Society in Age of Reconstruction. 1954, Routledge
Mannheim, K. - Ideology and Utopia. 1952, Routledge
Mannheim, K. - Diagnosis of Our Times. 1954, Routledge
Parsons, T. - Working Papers in the Theory of Action. 1953, Free Press
Parsons, T. - The Social System. 1952, Tavistock
Parsons, T. - Essays in Sociological Theory. Rev. ed., 1954, Free Press
Parsons, T. & E. Shils (eds.) - Toward a General Theory of Action. 1952, Harvard U. P.

- Riesman, D. - Individualism Reconsidered and Other Essays. 1954, Free Press
 Russell, B. - Roads to Freedom. 1954, G. Allen & Unwin
 Trevelyan, G. M. - Illustrated English Social History. 3rd ed., 1955, Longmans
 Weber, M. - Gesammete Aufsätze zur Wissenschaftslehre. 2. Aufl., 1951, Mohr
 Weber, M. - The Theory of Social and Economic Organization. 1947, Free Press

(b) 法律・政治学

日本は敗戦によって、平和で民主的な国家に生れかわらねばならなかった。GHQの指導下の昭和二十一年五月三日、日本国憲法の公布によって、行く道はかなり明確にされたが、極めて難かしい途であった。占領軍といっても主導権を握っているアメリカ合衆国から各種の顧問団や調査団が来て、いろいろの忠告や指示を与えていた。それらは日々の新聞で報道された通りである。そして何よりも経済復興が優先したので、経済関係に比べれば、法律政治関係の書物は需要度が少なかった。ここでは必携書として需要の多かったものを数点掲げる。

- Ballantine, H. W. - On Corporation. Rev. ed., 1946, Callaghan
 Colombos, C. J. - International Law of the Sea. 5th ed., 1951, Longmans
 Friedmann, W. - Legal Theory. 3rd ed., 1953, Stevens & Sons
 Oppenheim, L. - International Law. 7th ed., 1955, Longmans
 Osborn, P. G. - Concise Law Dictionary. 1954, Sweet & Maxwell

(c) 経済学

ここにあげた経済学関係書の著者及び書物については、すでに大正から戦前にかけて、日本の経済学者、論客に

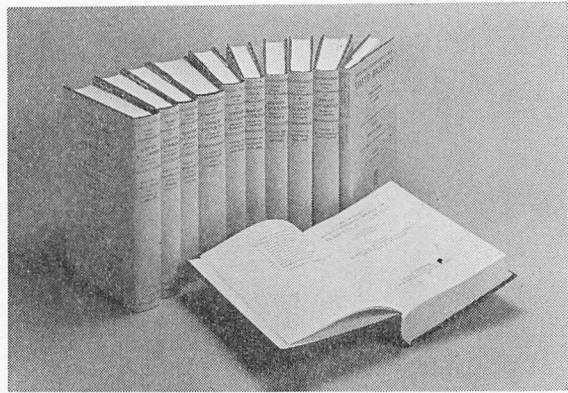
はよく知られていた。ことにケインズについては、在職二カ月で、病のため首相の地位を去った石橋湛山（元東洋経済新報社長）もその説に共鳴していた（木村毅著「丸善外史」四一〜四三頁）、鬼頭仁三郎や塩野谷九十九の訳が出たのは昭和初年である。ケインズの父（Keynes, John Neville）も有名な経済学者でその著“Scope and Method of Political Economy. 1891”はわが国でも広く読まれた。昭和五年浜田恒慶応大学教授の訳で「経済学の範囲と方法」と題して出版されている。

我が国の経済学界もそれらの影響で大きく変りつつあった。同時に新しい経済学の必要が叫ばれていた。杉本榮一（一橋大学教授の「近代経済学史」が昭和二十八年、岩波全書の一冊として出版され、「日本経済新聞」には「新しい経済学」が、昭和二十五年から掲載され、のちにそれが「近代経済学教室」全六冊となって出版された。

- Chamberlin, E. H. - The Theory of Monopolistic Competition. 1948, 6th ed., Harvard U. P.
Dobb, M. - Studies in the Development of Capitalism. 1954, Routledge
Galbraith, J. K. - American Capitalism: The concept of countervailing power. 1952, Houghton Mifflin
Hansen, A. H. & R. V. Clemence - Readings in Business Cycles and National Income. 1953, G. Allen & Unwin
Harrod, R. F. - The Dollar. 1953, Norton
Harrod, R. F. - The Life of John Maynard Keynes. 1951, Macmillan
Hicks, J. R. - A Contribution to the Theory of the Trade Cycle. 1950, Oxford U. P.
Kalecki, M. - Theory of Economic Dynamics: An essay on cyclical and long-run change in capitalist economy. 1954, G. Allen & Unwin

- Kindleberger, C. P. - International Economics. 1953, Irwin
- Klein, L. R. - The Keynesian Revolution. 1950, Macmillan
- Marshall, A. - Elements of Economics of Industry. 1949, Macmillan
- Meade, J. E. - The Balance of Payments. 1951, Oxford U. P.
- Pigou, A. C. - Income: An introduction to economics. 1946, Macmillan
- Pigou, A. C. - The Economic of Welfare. 4th ed., 1952, Macmillan
- Robinson, J. - Introduction to the Theory of Employment. 1947, Macmillan
- Robinson, J. - An Essay on Marxian Economics. 1947, Macmillan
- Robinson, J. - The Economics of Imperfect Competition. 1952, Macmillan
- Samuelson, P. A. - Foundations of Economic Analysis. 1953, Harvard U. P.
- Schumpeter, J. A. - The Theory of Economic Development: An inquiry into profits, capital, credit, interest and the business cycle. 1951, Harvard U. P.
- Smith, A. - An Inquiry into Nature and Causes of the Wealth of Nations. (Modern Lib.) 1937, Random House
- Weber, M. - The Protestant Ethic and the Spirit of Capitalism. 1950, G. Allen & Unwin

一般に新しい学説が生れると、必ず古い学問の再吟味が起る。経済学の分野でも、それは例外ではない。すでにアダム・スミスの「国富論」のキャン版は、一九三七年、ニューヨークの Modern Library 社から一冊本として復刻され、当社へも入荷していたが、昭和二十六年になって、リカードの全集が出版された。それについては、高垣寅次郎一橋大学名誉教授が「学鑑」昭和二十七年九月号に「スラッファ編集 リカード全集」と題して紹介し、従来もっとも珍重信頼されたマカロック版同全集では所在不明のまま収録できなかったリカード書翰の全部



リカード全集

を収録し得た苦勞に感嘆して、最近半世紀間否あるいは、それ以上にわたる期間における経済学分野での最大の出版であると賞賛している。その巻別は、左の通りである。

- Vol. I : On the Principles of Political Economy and Taxation.
- Vol. II : Notes on Malthus's Principles of Political Economy.
- Vol. III : Pamphlets and Papers 1809-1811.
- Vol. IV : Pamphlets and Papers 1815-1823.
- Vol. V : Speeches and Evidence.
- Vol. VI : Letters, 1810-1815.
- Vol. VII : Letters, 1816-1818.
- Vol. VIII : Letters, 1819-June 1821.
- Vol. IX : Letters, July-1821-1823.
- Vol. X : Biographical Miscellany, including Journal of a Tour on the Continent.
- Vol. XI : General Index.

全十一巻は、一九七三年完結した。

また、さきのリカード全集編集者、J. F. McCulloch の著“Early English Tracts on Commerce”の複刻も、昭和二十九年に公刊された。

(六) 自然科学・理工学関係

物理学や化学の進歩とともに生産技術や通信技術の進歩は戦前においても著しく、経済の分野でも技術の進歩のもつプラスの意義を極めて重視するようになっていた。核爆発の力を武器や発電に利用することは、時間の問題となっていたのである。第二次世界大戦中、アメリカ合衆国が原子爆弾を完成して、日本は世界人類中最初にその洗礼を受けた。光芒は千の太陽よりも明るかったが結果は一本の燈心の光さえも残さなかったことは、なお記憶に新たなことであろう。一方通信・交通機関の非常な発達も記するまでもない。

医学・薬学の進歩の度においても、英・米と日本とは大差を生じていた。ペニシリンが化膿性疾患に、ストレプト・マイシンが肺結核に著功をあらわした。DDTを頭から振りかけられた当時の小学生もやがて四十の齢を算えるであろう。その当時は、副作用など考えることもなく化学の力を信頼したもので、公害について考えるものは極めて少なかった。

(a) 理工学

混乱の渦巻く中で、日本再建のための技術革新があらゆる生産面で叫ばれた。GHQ民間情報教育部が技術関係の書物を最初に輸入許可したのは、日本の生産力をまず高めようとしたためであった。

昭和二十六年十月には、明治時代から取引のある米国ワイリー社の理工学書を三階の洋書売場に陳列して、予約注文を受けた（終了後各支店でも順次陳列して予約注文を受けた）。

翌年四月には理工学書では米国出版界第一といわれるマグロー・ヒル社の特選理工学書の特別陳列即売を行ったが、

その中には、次のような書物があった。

- Labberton, J. M. - Marine Engineer's Handbook. 1945
Colvin, F. H. & F. A. Stanley - American Machinists' Handbook. 1945
Ketchum, M. S. - Structural Engineers' Handbook. 1924
Henney, K. - Radio Engineering Handbook. 1950
Tool Engineers' Handbook. 1949
Urguhart, L. C. - Civil Engineering Handbook. 1950
Marks, L. S. - Mechanical Engineers' Handbook. 1951
O'Rourke, C. - General Engineering Handbook. 1940
Brady, G. S. - Materials Handbook. 1951
Dome, R. B. - Television Principles. 1951
Schmidt, A. X. & C. A. Marlies - Principles of High-Polymer Theory and Practice. 1948
Mantell, C. L. - Industrial Electrochemistry. 1950
Stephenson, J. N. (ed.) - Pulp and Paper Manufacture. Vol. 1, 1950
Reich, H. J. & others (ed.) - Very High-Frequency Techniques. 2 vols., 1947

理工学関係書の分野でも、戦中・戦争後の空白をうめるため、輸入再開後は需要が非常に増えた。特に基礎的な書物として注文の多かったものとして、“A. S. T. M. (American Society for Testing Materials) 1949 Book of Standards”がある。これは、学界・業界ともに材料検査の必携書として、戦後入荷の最も待たれた書物の一つであった。その他には、

Gmelins Handbuch der anorganischen Chemie. 8. Aufl., System Number 1-71, 1926, Verlag

Chemie

- Beilsteins Handbuch der organischen Chemie. 4. Aufl., 1910, Springer Verlag
Heilbron, I. & H. M. Bunbury - Dictionary of Organic Compounds. 4 vols., 1954, Eyre & Spottiswoode
Mellor, J. W. - A Comprehensive Treatise on Inorganic and Theoretical Chemistry. 16 vols., with suppl., 1952, Longmans
Kirk, R. E. & D. F. Othmer (eds.) - Encyclopedia of Chemical Technology. 15 vols., 1948-'56, Wiley
1954 SAE Handbook. 1955, The Society of Automotive Engineers
Flügge, S. (Hrsg.) - Handbuch der Physik. 54 Bde., Springer Verlag
Landolt, H. & R. Börnstein - Zahlenwerte und Funktionen aus Physik, Chemie, Astronomie Geophysik und Technik. 6. Aufl., 1950-'55, Springer Verlag

(b) 医学

医学書も理工学書同様輸入再開後の需要が急激に伸びたことはいうまでもない。この頃は未だドイツ、アメリカの医学書の割合は略五〇%を占めていた。その主なものを挙げる。

- Anderson, W. A. D. - Pathology. 2nd ed., 1953, Kimpton
Topley, W. W. C. & G. S. Wilson - Principles of Bacteriology and Immunity. 2 vols., 3rd ed., 1946, Williams & Wilkins
Dubos, R. J. - The Bacterial Cell: In its relation to problems of virulence, immunity and chemotherapy. 1945, Harvard U. P.

Maximow, A. A. & W. Bloom - A Textbook of Histology. 6th ed., 1952, Saunders
Papanicolaou, G. N. - Atlas of Exfoliative Cytology. 1954, Harvard U. P.
Ranson, S. W. - The Anatomy of the Nervous System: Its development and function. 9th
ed., 1953, Saunders

Davson, H. - A Textbook of General Physiology. 1951, Churchill
Evans, C. L. - Principles of Human Physiology. 11th ed., 1952, Churchill
Fulton, J. F. - Physiology of the Nervous System. 3rd rev. ed., 1951, Oxford U. P.
Selye, H. - The Physiology and Pathology of Exposure to Stress. 1950, Acta
Selye, H. - Textbook of Endocrinology. 2nd ed., 1950, Univ. de Montréal Press
Baldwin, E. - Dynamic Aspects of Biochemistry. 2nd ed., 1952, Cambridge U. P.
Harrow, B. - Textbook of Biochemistry. 5th ed., 1950, Saunders
Jordan-Burrows' Textbook of Bacteriology. 15th ed., 1949, Saunders
The Dispensary of the United States of America. 2 vols., 1950 ed., Lippincott
Gaddum, J. H. - Pharmacology. 4th ed., 1953, Oxford U. P.
Wintrobe, M. M. - Clinical Hematology. New rev. ed., 1952, Kimpton
Overholt, R. H. & L. Langer - The Technique of Pulmonary Resection. Rev. ed., 1951, Black-
well

Dahl, J. F. - Roentgen Examinations in Acute Abdominal Diseases. 1952, Blackwell
Rivo, M. & I. A. Shauffer - Gastrointestinal X-Ray Diagnosis. 1952, Kimpton
Schindler, R. - Gastroscopy. 2nd ed., 1950, Univ. of Chicago Pr.
Umbreit, W. W. - Metabolic Maps. 1954, Burgess
Ormsby, O. S. & H. Montgomery - Diseases of the Skin. 8th ed., 1954, Kimpton
Jones, R. W. - Fractures and Joint Injuries. Vol. 1, 4th ed., 1952, Livingstone

- Arruga, H. - Ocular Surgery. 1952, McGraw-Hill
- Ballenger, W. I. & H. C. Ballenger - Diseases of the Nose, Throat and Ear. 9th ed., 1947, Kimpton
- Thoma, K. H. - Oral Pathology. 4th ed., 1954, Kimpton
- Tylman, S. D. - Theory and Practice of Crown and Bridge Prosthesis. 3rd ed., 1954, Kimpton
- The Merck Index of Chemicals and Drugs. 6th ed., 1952, Merck
- The Pharmacopeia of the United States of America. 9th rev. ed., 1951, Lippincott
- Remington's Practice of Pharmacy. 1950, Mack Pub.
- Patty, F. A. (ed.) - Industrial Hygiene and Toxicology. 2 vols., 1952, Interscience
- Maingot, R. - Abdominal Operations. 2nd ed., 1948, Appleton
- Harrison, T. R. (ed. -in-chief) - Principles of Internal Medicine. 2nd ed., 1954, Blakiston
- Goldberger, E. - Heart Disease: Its diagnosis and treatment. 1951, Kimpton
- Levine, S. A. - Clinical Heart Disease. 4th ed., 1952, Saunders
- Luisada, A. A. - Heart: A physiologic and clinical study of cardio-vascular diseases. 2nd ed., 1954, Baillière
- White, P. D. - Heart Disease. 4th ed., 1951, The Macmillan
- Banyai, A. L. - Pneumoperitoneum Treatment. 1946, Kimpton
- Greenhill, J. P. (ed.) - Principles and Practice of Obstetrics. 10th ed., 1951, Saunders
- Novak, E. - Gynecology and Obstetric Pathology. 3rd ed., 1952, Saunders
- Novak, E. & E. R. - Textbook of Gynecology. 4th ed., 1952, Williams & Wilkins
- Williams, L. H. - Aids to Obstetrics. 10th ed., 1950, Williams & Wilkins
- Holt, L. E. - Pediatrics. 12th ed., 1953, Appleton
- Nelson, W. E. (ed.) - Textbook of Pediatrics. 6th ed., 1954, Saunders

- New and Nonofficial Remedies, 1953-1954, 1954, Lippincott
- Smillie, W. G. - Preventive Medicine and Public Health. 2nd ed., 1952, The Macmillan
- Shackelford, R. T. - Surgery of the Alimentary Tract. 2 vols., 1955, Saunders
- Williams, R. H. (ed.) - Textbook of Endocrinology. 1950, Saunders
- Landois, L. & R. Rosemann - Physiologie des Menschen. 26. Aufl., 1950, Urban & Schwarzenberg Verlag
- Bier-Braun-Kümmell - Chirurgische Operationslehre. 7. Aufl., 6 Bde., 1952-'55, Barth
- Korth, C. - Klinische Elektrokardiographie. 5. Aufl., 1952, Urban & Schwarzenberg Verlag
- Bing, R. - Lehrbuch der Nervenkrankheiten. 9. Aufl., 1952, Schwabe Verlag
- Bleuler, E. - Lehrbuch der Psychiatrie. 8. Aufl., 1949, Springer Verlag
- Kretschmer, E. - Medizinische Psychologie. 10. Aufl., 1950, Verlag Thieme
- Denker, A. & W. Albrecht - Lehrbuch der Krankheiten des Ohres und der Luftwege einschließlich der Mundkrankheiten. 14. Aufl., 1952, Fischer Verlag
- Martius, H. - Die geburtshilflichen Operationen. 7. Aufl., 1953, Verlag Thieme
- Martius, H. - Die gynäkologischen Operationen und ihre topographisch-anatomischen Grundlagen. 7. Aufl., 1954, Verlag Thieme
- Martius, H. - Lehrbuch der Geburtshilfe. 2. Aufl., 1952, Verlag Thieme
- Martius, H. - Lehrbuch der Gynäkologie. 3. Aufl., 1953, Verlag Thieme
- Stöckel, W. - Lehrbuch der Geburtshilfe. 11. Aufl., 1951, Fischer Verlag
- Stöckel, W. - Lehrbuch der Gynäkologie. 12. Aufl., 1952, Hirzel Verlag
- Fanconi, G. & A. Wallgren (Hrsg.) - Lehrbuch der Pädiatrie. 3. Aufl., 1954, Schwabe Verlag
- Lust, E., Pfandlner & J. Husler - Krankheiten des Kindesalters. 19. Aufl., 1953, Urban & Schwarzenberg Verlag

また、この頃になると定評のある参考書或いは論文に引用されている文献の間合せが増加し、同時に大学及び大学院の学生のための参考書・教科書類の注文が増えてきた。こうした基礎的な書物の中には出版されてから短いので三十年、永いものでは八十余年もの生命をもっているものもある。一、二例を挙げてみよう。

まず理工学関係で、

Terman, F. E. - Electronics and Radio Engineering. McGraw-Hill

Fink, D. J. - Standard Handbook for Electrical Engineers. McGraw-Hill

Croft, T. W. - American Electricians Handbook. McGraw-Hill

次に医学関係では、

Spalteholz, W. & R. Spanner - Spalteholz-Spanner Handatlas der Anatomie des Menschen. Hirzel Verlag

Rauber, A. & F. Kopsch - Lehrbuch und Atlas der Anatomie des Menschen. Verlag Thieme

Stöhr P. & W. Möllendorff - Lehrbuch der Histologie. Fischer Verlag

Bergey's Manual of Determinative Bacteriology. Bailliere

Klemperer, G. - Grundriss der klinischen Diagnostik. Hirschwald Verlag

Feer, E. - Lehrbuch der Kinderheilkunde. Fischer Verlag

Aschoff, L. - Pathologische Anatomie. Fischer Verlag

Klemperer の著書は、著者が長逝してから後、日本での版權が当社に移され、リプリント版として出版した。



“Writers and Their Works”

(七) 文学

英文学関係では、シェイクスピアの作品とこれに関する案内書、研究書、シェイクスピア辞典など、シェイクスピア関係だけで間口約二メートル、奥行一メートルちかい売場の書架にギッシリ詰っていて、増えても減ることはなく、英文学書では常時良い売れ行きを示している、いわばドル箱商品である。そのほか、チヨースターの「カンタベリー物語」、ミルトンの「失樂園」、トーマス・ハアデイ、チャールズ・デッケンスの作品などもよく売れていた。勿論、他の作家についても、作品のほか伝記や作品研究の種類が多くなっている。それらの中で、初学者のための作家研究の入門書として最適な書物の一つに“Writers and Their Works”という叢書がある。これは The British Council の発行によるものであるが、英文学を学ぶ高等学校や大学の教養課程の学生には便利かつ有益な書物として、値段も丁度コピー一杯分ぐらいなので、好評であった。なお研究社が、この叢書の訳を「英文学ハンドブック」と題して出版している。

これらのイギリス伝来の小説が良く売れた一方、キングスレイ・エイミス (K. Aims) の “Lucky Jim” が大

好評を得て、戦後イギリス文学の新しい世代（怒れる若者達）の先駆をなした。

一方、アメリカ文学では、フォークナー、ヘミングウェイ、スタインベック等の中堅作家の作品が確実に読まれた。中でも、ノーマン・メイラー (N. Mailer) の “The Naked and the Dead” (1948) と J. D. Salinger) の “The Catcher in the Rye” (1951) の二作品が戦後の新しいアメリカ文学として広く読まれた。戯曲ではユージン・オニール一辺倒から、アーサー・ミラー (A. Miller) の “Death of a Salesman” (1949)、テネシー・ウィリアムズ (T. Williams) の “A Streetcar Named Desire” (1947) 等が、ローランド・ワイに登場して、我が国に於けるアメリカ文学への関心が高まった。

評論ではウエベック、ウォレン (R. Welleck & A. Warren) 共著の “Theory of Literature” (1949) と、ハイムサット、ブルックス (W. K. Wimsatt & C. Brooks) 共著の “Literary Criticism: A short history” (1957)、ノースロップ・フライ (N. Frye) の “Anatomy of Criticism” (1957) 等の新しい批評と呼ばれる評論家の作品が次から次へと輸入された。

以下、英米文学研究書、英・米・仏・独の文学、小説、評論で、当時広く売れた書名を挙げると次のようである。

(a) 英米文学研究書

Ward, A. W. & A. R. Waller (eds.) - The Cambridge History of English Literature. 15 vols., 1949~1953, Cambridge U. P.

Schmidt, A. - Shakespeare-Lexicon: A complete dictionary of all the English words, phrases

and constructions in the works of the poet. 2 vols., 4th ed., 1950, Stechert-Hafner

Maugham, W. S. - Ten Novels and Their Authors. 1954, Heinemann

Bartlett, J. - Complete Concordance, or Verbal Index..... Shakespeare. 1953, Macmillan

Cazamian, L. & E. Legouis - A History of English Literature. Rev. ed., 1951, Dent

Burke, K. - The Philosophy of Literary Form. 1955, Louisiana State U. P.

Brooks, C. - The Well-Wrought Urn. 1947, McClelland

Williams, R. - Drama from Ibsen to Eliot. 1952, Chatto

Chase, R. - The American Novel and its Tradition. 1958, G. Bell

Humphrey, R. - Stream of Consciousness in the Modern Novel. 1954, Univ. of California Pr.

(c) English Literature

Golding, W. - Lord of the Flies. 1954, Faber

Eliot, T. S. - Selected Poems. 1954, Faber

Greene, G. - Quiet American. 1955, Heinemann

Greene, G. - The Third Man. 1950, Viking

Maugham, W. S. - Complete Short Stories. 1951, Heinemann

Thomas, D. - Collected Poems. 1934-'52, Faber

(c) American Literature

Faulkner, W. - The Hamlet. 1956, Random House

Faulkner, W. - The Mansion. 1959, Random House

Jones, J. - From Here to Eternity. 1951, Doubleday

Hemingway, E. - The Old Man and the Sea. 1952, Scribner

Steinbeck, J. - East of Eden. 1952, Viking

(d) フランス文学

終戦後フランス文学書の輸入が開始されたのは昭和二十五年からで、我が国では、しばらく仏文学の空気にふれていなかったので、戦中の動向を知るまでは一種の昏迷期であった。入荷したのはサルトル、カミュ、ヴォヴォールの作品が代表的で、実存主義が主流をなしていた。

この頃になるとフランス文学関係書の輸入は月とともに多くなっていた。昭和二十八年五月号「学鑑」所収「新着棚—薫風に乗って遙々と」には次のように記している。「文学書中フランスの占める部分はこの処益々広くなり、評伝、随筆、劇作等戦前よりも取寄量がぐっとふえています、盛んな予約注文を受けて現物が着くと全部予約者で一杯と云うことも珍らしくなりました」

Adamov, A. - Théâtre. 2 tomes, 1953-'55, Gallimard

Aragon, L. - La diane française. 1945, Seghers

Aragon, L. - Les Yeux d'Elsa. 1942, Seghers

Anouilh, J. - Antigone. 1944, La Table Ronde

Beauvoir, S. de. - Le deuxième sexe. 2 tomes, 1949, Gallimard

Beauvoir, S. de. - Les Mandarins. 1954, Gallimard

Beauvoir, S. de. - L'invitée. 1943, Gallimard

Beckett, S. - En attendant Godot. 1952, Éd de Minuit

Camus, A. - L'été. 1954, Gallimard
 Camus, A. - L'étranger. 1942, Gallimard
 Camus, A. - Le mythe de Sisyphe. 1942, Gallimard
 Camus, A. - La Peste. 1947, Gallimard
 Martin du Gard, R. - Les Thibault. 7 vols., 1953, Gallimard
 Genet, J. - Journal du voleur. 1949, Gallimard
 Malraux, A. - La condition humaine. 1933, Gallimard
 Saint-Exupéry, A. de. - Le petit prince. 1946, Gallimard
 Saint-Exupéry, A. de. - Pilote de guerre. 1942, Gallimard
 Saint-Exupéry, A. de. - Terre des hommes. 1939, Gallimard
 Sarraute, N. - Portrait d'un inconnu. 1948, Gallimard
 Sartre, J. P. - Les chemins de la liberté. 3 tomes, 1945-49, Gallimard
 Sartre, J. P. - Le mur. 1939, Gallimard
 Sartre, J. P. - La nausée. 1938, Gallimard
 Sartre, J. P. - Les mains sales. 1948, Gallimard
 Weil, S. - La condition ouvrière. 1951, Gallimard

(e) ドイツ文学

ドイツ文学では、戦前から読まれているゲーテ、シラー、グリム、ハイネ、ノバルス、ヘルダーリンの作品が、戦後も引き続き良い売行きであったが、その他にトーマス・マン、カフカ、リルケ、ヘルマン・ヘッセ、カロッサ等の作品もよく読まれた。

戦中・戦後の作品としては次の三点が注目された。特にレマルクのものは、邦訳がベストセラーになったこともあってこの時期に、良く売れた書物の一つであった。

Hesse, H. - Das Glasperlenspiel. 1943, Suhrkamp Verlag

Carossa, H. - Eine Kindheit. 1942, Insel Verlag

Remarque, E. M. - Arc de triomphe. 1946, Michä Verlag

(ハ) 美術書

既述のように、司社長が社の事業として「臬会」を創設し、戦後の美術復興に力を注ぎ始めたのは、昭和二十二年のことであった。然し、当面経済復興第一とした国情のもとでは、民衆の関心も極めて薄く、GHQの輸入方針からも、美術書の輸入は、まだ寥々たるものであった。昭和二十年代後半に入荷したのものとしては、戦前から当社が代理店契約をしていた“Modern Publicity”, “Penrose Annual”, “Decorative Art”といったものが商業広告の実際的な必要から求められ、そして Skira 版の双書が戦後再び輸入されると好評な売行を示した。

昭和二十七年三月号「学鑑」所載「陳列場の一隅より」に「此処数ヶ月以前から特に色彩に関する權威書の御注文が多くなりました。芸術家は勿論ですが、建築工業、ペイント、絵具、染色関係から、はてはデパートメント・ストアに及ぶ広範囲の御用命で賑はって居ります。殊に左記は同じ御注文者が二部三部と同じ物を取寄方の御下命が御座います」(下略)と“Dictionary of Colours for Interior Decoration” (The British Colour Council) “Colour Index” (The Society of Dyers and Colourists) の二冊を挙げてゐる。しかし、まだこの時期では、

美術書の顧客は美術の専門家及び極く限られた一部の愛好家に限られていたといえる。

(九) 定期刊行物

(a) 雑誌

雑誌の輸入再開についての事情は、前章で大要を記した。

輸入再開時には人文科学関係、特にファッション関係雑誌の輸入が許されなかったことも、その際に触れた。しかるに昭和二十六年になると通産省はファッション雑誌の需要調査を行い、翌二十七年四月から洋書輸入の自動承認制が施行されるに及んで、ファッション雑誌の輸入を許可した。この頃になると物理・化学・医学の部門でも新分野の研究開発は著しく、それに伴って関連の専門雑誌が相次いで創刊されるという次第であった。そうになると、全世界から発行される何万冊という雑誌を全部通覧することは不可能とならざるを得ず、多くの雑誌から特定事項を抄録して一誌にまとめ掲載する抄録誌が増加してきた。

今ここで当社が、昭和二十九年・三十年に予約を受けた新聞・雑誌数をあげると、

昭和二十九年 八三、三〇〇点 一八〇、六二二（千円）

昭和三十年 八七、五〇〇点 二〇九、八一五（千円）

であった。

次に需要の多かった雑誌を列記しておく

イ 一般向及び社会科学関係

Collier's Woman's Home Companion Times Literary Supplement Business Week
Economist Fortune Good Housekeeping Harvard Business Review

□ 理工学・医学関係

Excerpta Medica Analytical Chemistry Journal of Bone and Joint Surgery Chemical
& Engineering News Journal of American Chemical Society Electronics Nature
Domus Chemical Technology National Geographic Magazine Machine Design Science
New England Journal of Medicine Journal of American Medical Association Lancet
Scientific American Journal of Biological Chemistry Chemical Abstracts Hydrocarbon
Processing Deutsche Medizinische Wochenschrift Angewandte Chemie Architecture
d'Aujourd'hui Biochemica et Biophysica Acta Biological Abstracts Index Medicus

以上の雑誌も、時には若干の消長を免れなかったけれども、現在も尚需要が増大している。

(b) 新聞

新聞について云えば、「タイムス」や、「ニューヨーク・タイムス」、「フランスの「ル・モンド」など各国の主要新聞は、今日でも予約が多い。

戦後総ての研究が日を追って高度化し、複雑多様化するとともに、その報道機関である新聞・雑誌の重要性は時の進むとともに増して来た。と同時に既刊のバックナンバーも資料として重視されるに至ったが、原紙のままでは

保存のために非常に大きいスペースを要するので、これをフィルムに収め、必要によりマイクロリーダーで引伸して読むという、いわゆるマイクロフィルム版が戦争中に英・米等で開発された。

昭和二十八年一月には、ロンドンの「タイムス」全紙のマイクロフィルムの発売が「学鑑」（昭和二十八年一月号）に報じられている。「タイムス」は John Walter によって一七八五年一月一日に「The Daily Universal Register」と題し創刊されたものであるが、このマイクロフィルム版は、創刊時から一九五二年分までのものである。全一六七年分を一七ブロックに別ち、別にその Literary Supplement と Educational Supplement の全部をマイクロフィルム化したものであった。

「タイムス」ほどの社でも一七八五年、一七八六年に限り計八十五日分の欠号があると伝えられている。

六 好評の和書

当社の和書販売は、社会科学、理工学、医学が中心で基礎的な書物がその売れ行きを中心であった。この傾向は洋書の場合と差異はない。

ここでは、昭和二十六年から三十年に至る間に好調な売れ行きを示したそれぞれの書名を列举しておきたい。

(一) 一般書及び社会科学書

各新聞社が毎年発行する「朝日年鑑」、「毎日年鑑」、「読売年鑑」、ダイヤモンド社の「会社要覧」、「ダイヤモンド実務知識」、「日本国勢図会」（国勢社）、我妻栄・宮沢俊義編「小六法」、末川博編「六法全書」、「学生六法全書」

といった必携書の売行は、今日にいたるまで、売行がよい。

その他この頃岩波書店刊行の「岩波写真文庫」は各冊一〇〇円という廉価のため、このシリーズの「鎌倉」、「奈良」、「いかるがの里」、「京都案内」、「尾瀬」などが、とくによく売れた。

一般教養書、社会探訪、歴史、時評等の分野では、

笠信太郎著「ものの見方について—西欧になにを学ぶか—」(河出書房) 内山完造著「それへえ・おおへ

え」(岩波新書) A・Cキンゼイ著 永井潜他訳「キンゼイ報告 上・下」(コスモポリタン社) 阿部次

郎著「三太郎の日記」(岩波書店) 菅原通済著「通済放談」(日本出版協同(株)) 清水崑著「筆をかつ

いで」(創元社) マークゲイン著 井本威夫訳「ニッポン日記 上・下」(筑摩書房) 佐藤弘人著「は

だか随筆」(中央経済社) 日置昌一著「ものしり事典 言語篇・風俗篇 上・下」(河出書房) 藤間生

太著「埋もれた金印」(岩波新書) 吉川幸次郎著「漢の武帝」(岩波新書) 安田徳太郎著「人間の歴史

一—三」(光文社) ネール著 辻直四郎訳「インドの発見 上・下」(岩波書店) 雄鶏社編「東京大空襲

秘録写真集」(雄鶏社) 大類伸編「世界人名辞典 東洋・西洋篇」(東京堂) 朝日新聞社編「朝日新聞重

要紙面の七十五年」(朝日新聞社) 西野照太郎著「鎖を絶つアフリカ」(岩波書店) バーチエット著 小

田坂二・小川修共訳「纏足を解いた中国 上・下」(岩波新書) 宮城音弥著「夢」(岩波新書) 宮城音弥

著「心理学入門」(岩波書店) 藤岡通夫著「城と城下町」(創元選書)

復興期の我国にとって経済の重要性は言うまでもない。ここでは広い意味での経済学関係書中、好評のものを挙

げておきたい。

- J・M ケインズ著 塩野谷九十九訳「雇傭利子及貨幣の一般理論」(東洋経済新報社) D・ディラーダ著
岡本好弘訳「J・M ケインズの経済学」(東洋経済新報社) セイモア・E・ハリス編 日本銀行調査局訳
「新しい経済学 (1)―(3)」(東洋経済新報社) 東洋経済新報社編「日本経済読本」(東洋経済新報社) 高
橋泰造編「体系経済学辞典」(東洋経済新報社) 舞出長五郎著「理論経済学概要」(岩波書店) ヒックス
著 安井琢磨・熊谷尚夫訳「価値と資本 1・2」(岩波現代叢書) 宇野弘藏著「経済原論 上・下」(岩
波書店) 高田保馬著「経済学原理」(日本評論新社) シュンペーター著 中山伊知郎・東畑精一訳「資
本主義・社会主義・民主主義 上・中・下」(東洋経済新報社) 高橋正雄著「ケインズ一般理論の研究」
(有斐閣) 「日本資本主義講座 一一九 別巻」(岩波書店) 岡倉古志郎著「死の商人」(岩波文庫)
緒間驥一著「統計図表の見方・画き方・使い方」(東洋経済新報社) H・ラスキ著 飯坂良明訳「近代国家
における自由」(岩波現代叢書) 末川博編「法学辞典」(日本評論新社) 我妻栄著「民法講話 一一四」
(岩波書店) 我妻栄著「民法大意 上・中・下」(岩波書店) 団藤重光著「刑事訴訟法 法学普及講座」
(勁草書房) 末弘厳太郎著・戒能通孝改訂「民法講話 上・中・下」(岩波書店)

(二) 理工学・医学書

さきにも触れた如く、この頃わが国の工・鉱業復興方針に沿って、鉄鋼・鉱山・熱管理・繊維・紡績・紙及パル
プ関係書がよく売れた。新しい分野として注目されだしたプラスチック関係は少なかったが、良い売れ行き

であった。

建築・土木関係の書物も売れ行きは良く、土木関係ではコンクリート工事、ダム工事、建築では特に住宅ブームの影響で、一般住宅建築のための永井玉吉・深田秀一・平塚正共著の「家の建て方・間取の工夫」(理工学社)、「住宅金融公庫選定・木造住宅平面図集」(新建築社)といった本の需要が多かった。

また、戦後は、一般に色彩についての関心が高く上田武人著の「色彩調節」(技報堂)がよく売れた。

昭和二十九・三十年になると工場管理、生産管理関係の書物が注目され始めた。

一方戦中から戦後へかけてのアメリカ医学の進歩は目覚ましく、アメリカの医学書を読む若い医学者が多くなり、従って、「英和 医学読本」(医学書院)、「英和 医学小辞典」(金原出版)等の需要が、当社においても急激に増していた。

当社の和書販売の特徴として、日本建築学会、土木学会、土質工学会、日本機械学会、日本規格協会、住宅公団、建設省、日本科学技術連盟等の学会・協会から発表される仕様書の販売を行っていることを付記しておきたい。

以下、昭和二十六年以降五年間に於ける好評であった書物を挙げよう。

伝染病研究所学会編「細菌学実習提要」(丸善出版) 森於菟他著「解剖学 一―四」(金原出版) 戸田

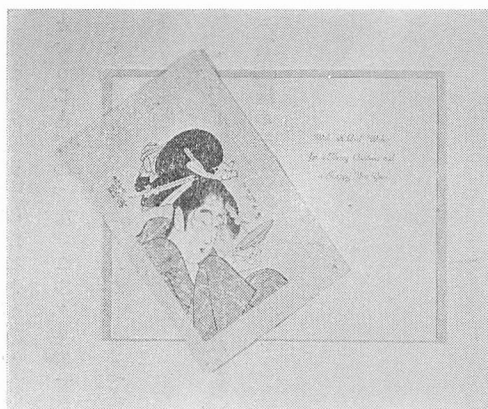
忠雄著「戸田 新細菌学」(南山堂) 金井泉著「臨床検査法提要 改訂十三版」(金原出版) 西川義方著

「内科診療の実際」(南山堂) 南江堂編「第六改正 日本薬局方註解 改正増補 第五版」 三堀重光・

石原平太郎・加藤保孝編「試薬註解 一・二」(南江堂) 薬事日報社編「最近の新薬」 沖中重雄編「内

- 科学」(医学書院) 高木貞治著「増訂 解析概論」(岩波書店) スネデカー著 畑村又次・津村喜郎訳
- 「統計的方法」(岩波書店) 井上敏他訳「岩波 理化学辞典」 東京天文台編「理科年表」(丸善) 岩
- 波書店編集部編「科学の事典」 東京理科大学学友会化学研究部編「化学文献所在目録」(丸善) ティモ
- チエンコ著 片山健次・北畠正次訳「材料力学 上・下」(コロナ社) 日本鉄鋼協会編「鋼の熱処理と作業
- 標準 訂正増補版」(丸善) 定方金藏著「電気鍍金」(産業図書) 葛岡常雄著「化学装置構造設計」(丸
- 善) 藤田重文著「化学工学設計演習Ⅰ・Ⅱ」(修教社) 金丸競著「界面活性剤 改訂増補版」(槇書店)
- 亀山直人著「電気化学の理論及応用 上・中・下」(丸善) 桑田勉著「溶剤」(丸善) 清水博著「イオン
- 交換樹脂」(共立出版) 亀井三郎著「化学機械の理論と計算」(産業図書) 物部長穂著「水理学」(岩波
- 書店) 日本建築学会編「建築工学ポケットブック 全二冊」(丸善) 日本建築学会編「建築術語集」(丸
- 善) 日本建築学会編「建築設計資料集成 1・2・3」(丸善) 中村達太郎著「換気暖房の計算必携」
- (丸善) 中村達太郎著「給水給湯及消火設備」(丸善) 内藤多仲著「建築構造要覧 上・下」(早大出版
- 部) ル・コルビュジエ著 吉阪隆正訳「モデュール(黄金尺)(日本版)」(美術出版) 成田潔英著「紙
- 業提要」(丸善) 厚木勝基著「バルブ及紙 全訂改版」(丸善) 渡辺喜作著「綿糸布の基礎知識」(江南
- 書院) 大住吾八著「紡績汎論」(丸善) 長津勝治著「実用染色法―浸染篇」(丸善) 渡辺正元著「ナ
- イロン」(高分子化学刊行会)

また理工学書では特に便覧の売れ行きが、安定していた。



クリスマスカード（高見沢版画製）

(三) その他

- 日本鉄鋼協会編「鉄鋼便覧」（丸善）
- 小栗富士雄編「標準機械設計図表便覧」（共立出版）
- 硫酸協会編「硫酸工学便覧」（河出書房）
- 杉本十九編「塗料辞典」「塗料便覧」（修教社）
- 合成樹脂便覧（産業図書）
- 日本化学会編「化学便覧」（丸善）
- 日本機械学会編「機械工学便覧」（日本機械学会）
- 山中等男著「金属材料重量便覧」（中村書店）
- 土木学会編「土木工学ハンドブック」（技報本機械学会）
- 化学機械協会編「化学工学便覧」（丸善）
- 「丸善金属重量表」（丸善）

以上の他、文学書もその時期、一般にベストセラーになったものは、当社の売場においても好評であった。

この頃、和書売場には既述のように、ライブラリー・モデルルームを設置していた関係から、児童書、学習参考書の類の陳列を行っていた。このような関係で、小学生・中学生向の書籍を各学校へ一括して納入することも度々あった。

更に、この頃からクリスマスカードの販売に力を入れ、店頭販売だけでなく見本帖を持って本支店とも附近の会社から注文を取りに歩く外売を開始した。クリスマスカードの売れ行きは、その後順調に伸び、昭和二十六年外務省を通じて総理大臣吉田茂から、クリスマスカード

二千枚の注文を受けたことがあった。この年九月サンフランシスコ講和条約調印の際会った知己友人へ送るためだということであった。このクリスマスカードは、高見沢版画店で製作して納めた。

また種類は少なかったが、英文で書かれた日本紹介書を一カ所にまとめて陳列したが、この試みは、好評で次のような書物がよく売れた。

“Tourist Library” (日本交通公社) / “Directory of Foreign Firms” (東京マース通信社) / “We Japanese” (富士屋ホテル)